KAWAI
DIGITAL PIANO
CA51
取扱説明書

■同梱品

□本　体
□スタンド
□譜面台
□椅　子
□電源コード
□取扱説明書（本書）
□クラシカルピアノコレクション（楽譜集）
□ヘッドホン
□ヘッドホンフック
□スタンド組立図
□保証書
□ご愛用者カード
□アフターサービスと音楽教室のご案内
□楽譜集のご案内
□「コンサートマジック曲集」注文払込用紙

このたびは、KAWAI デジタルピアノCA51をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
CA51は、木製鍵盤を搭載しておりグランドピアノのタッチをリアルに再現します。
ピアノ音色はフルコンサートグランドピアノをステレオサンプリングしたもので、ダンパーペダルを踏んだ時の響きも含めて大変リアルな音になっています。
ピアノ音色以外にもオルガンなどCA51では全40音色を内蔵し様々な音色を楽しむことができます。
また、ピアノ演奏上達のためのレッスン機能を搭載し、お子様でも楽しく練習することができます。
その他、自分の演奏を録音する機能、音に残響効果を与えるリバーブやその他のエフェクト、伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングやハンマーフェルトの軟硬をシミュレートするボイシングなど多種多彩な機能を装備しています。
さらに、電子楽器統一規格であるMIDI端子やコンピュータ接続端子USBを装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブルや直接コンピュータに接続して楽譜の演奏など、バラエティーに富んだ演奏にも対応できます。
CA51の性能をフルに発揮していただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

■CA51をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

目　次

1. 各部の名称と働き 6
◇ パネル図 6
◇ ペダルを使って演奏 6
◇ ヘッドホン 7

2. 演奏してみましょう 8
1）基本操作 8
◇ 音色の選び方 9
2）デュアル演奏 11
3）スプリット演奏 12
4）連弾演奏 14
5）リバーブ / エフェクト 15
◇ 音に REVERB（リバーブ）を加える 15
◇ 音に EFFECTS（エフェクト）を加える 16
◇ コーラス / ディレイ / トレモロ / ロータリー効果の
かかり具合を変える 17
6）デモ曲の演奏 18
◇ その他のデモ曲 19
7）ピアノミュージックの演奏 20
8）コンサートマジック 22
◇ コンサートマジック曲選択と演奏 23
◇ コンサートマジック曲の再生 24
◇ その他の再生方法 （チェイン再生 / グループ再生 /
ランダム再生）..... 25
◇ コンサートマジック曲目 26
9）トランスポーズ 28
10）メトロノーム / リズム 29
◇ メトロノーム / リズムの発音とテンポ設定 29
◇ メトロノーム の拍子 / リズムの設定 29
◇ メトロノーム / リズムの音量設定 30
◇ リズム一覧 31

3. レッスン機能の使い方 32
1）練習曲機能を使って 32
◇ 練習したい曲を選ぶ 33
◇ 見本曲を聴く 34
◇ 見本曲の途中から再生する 35
◇ 見本曲の片方のパートを再生しながら、もう片方の
パートを練習する 36
◇ 見本曲の途中を繰り返して練習する 37
◇ 見本曲に合わせて録音する 38
◇ レッスン機能を終了する 38
2）指のトレーニング機能を使って 39
◇ 練習したい曲を選ぶ 39
◇ 見本曲を聴く 40
◇ 見本曲に合わせて録音し、評価結果をチェックする 41
◇ レッスン機能を終了する 42

4. レコーダーの使い方 43
1）録音 43
◇ 録音するソングとパートの選択 43
2）再生 45
3）パートのデータの消去 46

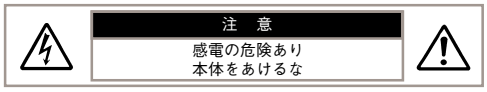
5. バーチャルテクニシャンの使い方 ... 48
1）ボイシング 48
2）ダンパーレゾナンス 49
3）ストリングレゾナンス 50
4）キーオフエフェクト 51
5）タッチカーブ 52
◇ ユーザータッチカーブ作成機能の使い方 53
6）音律の設定 54
◇ ユーザー音律の設定方法 55
7）音律の主音の設定 56
8）ストレッチチューニング 57

6. 設定モードの使い方 58
1）ブリリアンス 58
2）ロアーオクターブシフト 59
3）ロアー ペダルのオン / オフ 59
4）レイヤーオクターブシフト 60
5）レイヤー ダイナミクス 61
6）ダンパーホールドのオン / オフ 62
7）チューニング 63
◇ MIDI について 64
8）MIDI 送信・受信チャンネル 66
9）プログラム（音色）ナンバー送信 67
10）ローカル コントロール 68
11）プログラム（音色）ナンバー送信のオン / オフ 69
◇ 音色ボタンによるプログラムナンバーの送信 /
パネル操作の送信 69
12）マルチ ティンバーモード 71
13）チャンネルミュート 72
14）ユーザー メモリー 72
15）ファクトリー リセット 73
16）表示言語 74

7. 付　録 75
◇ 他の機器との接続 75
◇ CA51 スタンド組立図 77
◇ 主な仕様 79
◇ KAWAI［Model CA51］
MIDI インプリメンテーションチャート 80

◆安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

⚠ このマークは、感電の危険があることを警告しています。

⚠ このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

	△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。
	○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。
	●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆付属の電源コードは本機でのみ使用する

●付属の電源コード以外を本機で使用しないでください。
●付属の電源コードを他の機器で使用しないでください。

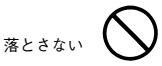
◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

●感電の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける,かける,こぼす）などしない

●漏電によって、感電や発火の原因になります。

◆本機を落とさない



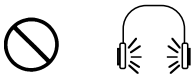
●運搬の際は、必ず２人以上で運んで下さい。

◆イスは次のように使用しない

●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●イス組立時、ネジをしっかり締める

●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。
●不安定な場所に置かないでください。
●長時間使用してイスのボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

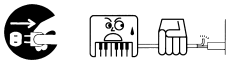


●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

●落雷時に火災の原因になります。

⚠注意

◆本機を次のような所では使用しない
- ●窓際など直射日光の当たる場所
- ●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- ●戸外など極端に温度の低い場所
- ●極端に湿度の高い場所
- ●砂やホコリの多い場所
- ●振動の多い場所

使用禁止

●故障の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる

●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る

●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない

●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本機の鍵盤にもたれない

もたれない

●本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す

●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類は本体で踏んだりからまないように接続する

からまないようにする

●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止

●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない

●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

◆本機を移動するときは引きずらない

引きずらない

●移動の際は、必ず持ち上げて運んで下さい。引きずって移動すると、本体を破損する恐れがあります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●パネル上のディスプレイには、あらかじめ保護用の透明シートが貼り付けてありますので、はがしてからご使用下さい。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

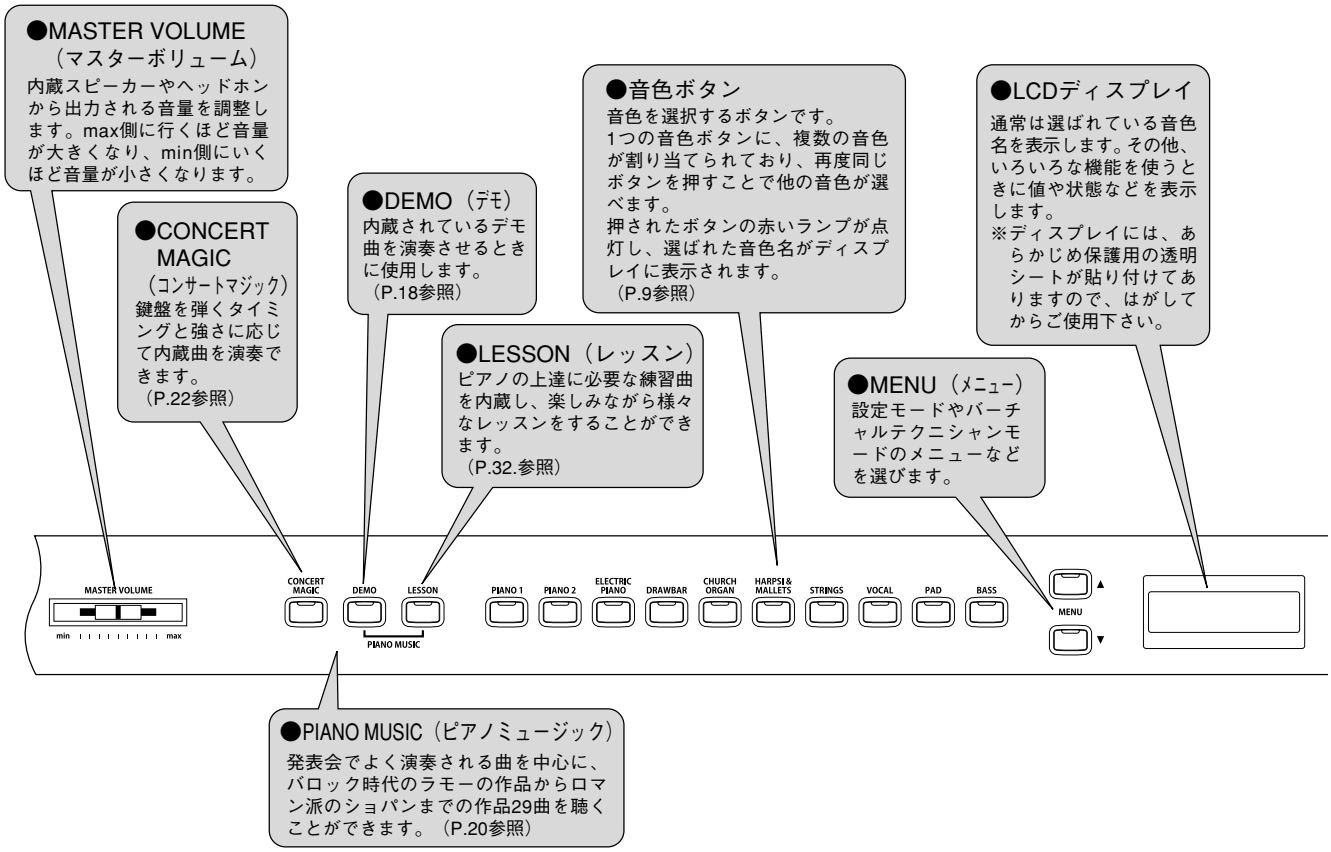
■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1. 各部の名称と働き

スライダーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◇ パネル図

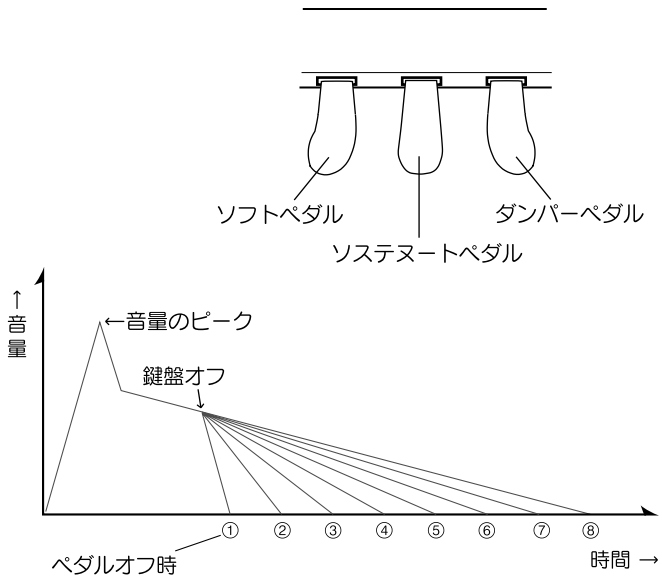


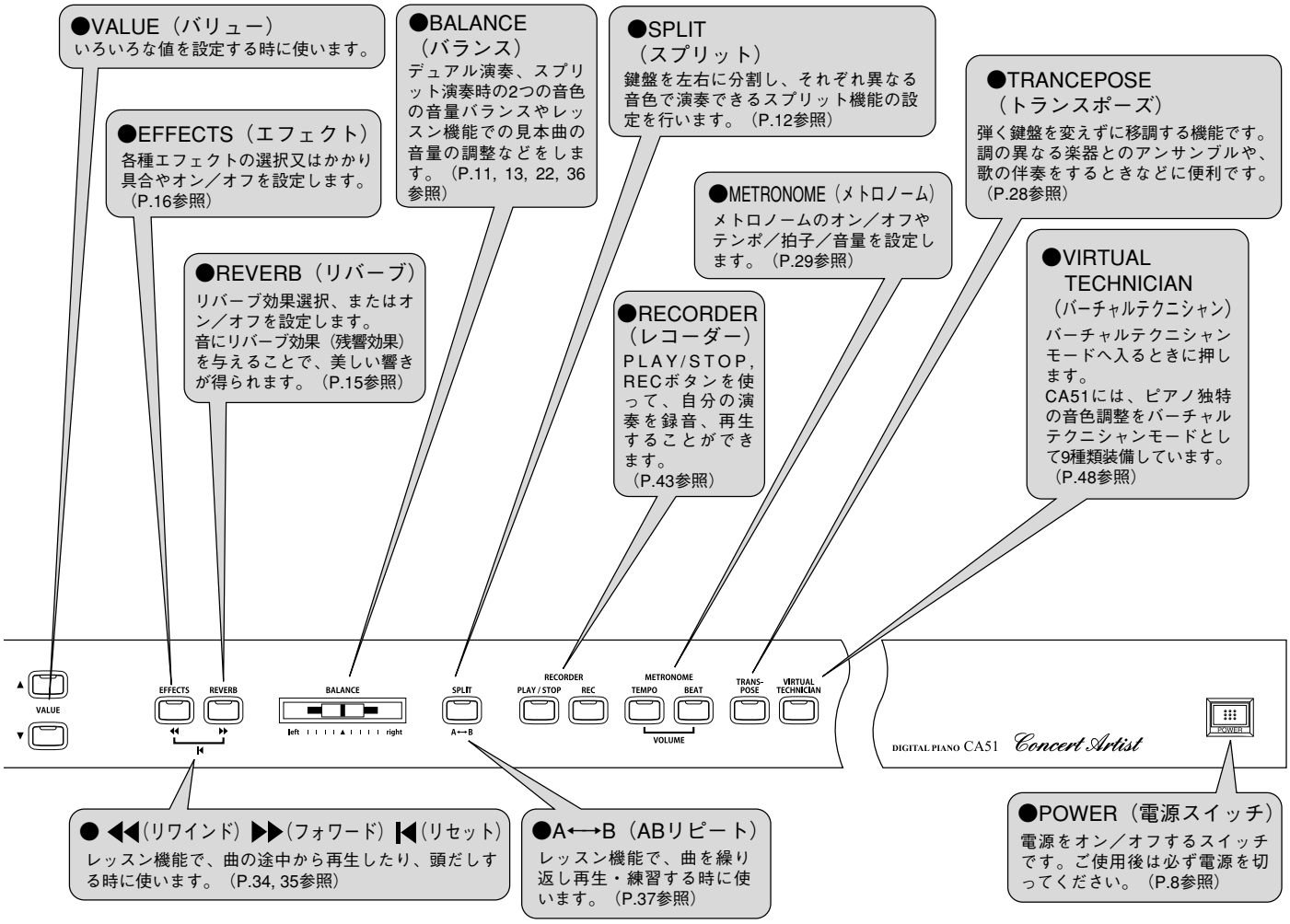
◇ ペダルを使って演奏

◆ ダンパーペダル

このペダルを踏んで演奏すると鍵盤から手を離した後の音の減衰の仕方が変わります。
踏み具合により下図の8段階の減衰の調節ができます。

右図は、鍵盤を押した後の時間と音量の関係を表わしたグラフです。
ダンパーペダルの踏み方により、離鍵時の減衰が、8通りになります。
深く踏むごとに、① → ② →・・・・→ ⑧のような減衰の仕方をしていきます。
最も深く踏んだときに、最も音が伸びます。





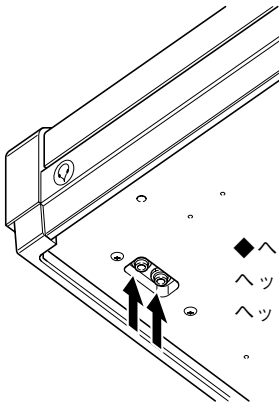
◆ ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。
従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

◆ ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。
EFFECTS ボタン を押してロータリーが選ばれている時は、踏むたびにスピード（Slow/Fast）を切り替えます。

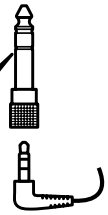
◇ ヘッドホン



◆ヘッドホン端子（2個）
ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンは2つまで接続できます。

◇注意

ヘッドホンジャックの大小に対応するための着脱可能アダプターが付いています。プラグを抜いたとき、このアダプターが残ると本体のスピーカーから音が出ない場合がありますのでご注意ください。



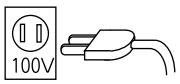
2. 演奏してみましょう

1）基本操作

ここでは、電源を入れて音を出すまでの基本的な手順を説明します。

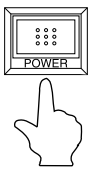
□操作１

電源コードを AC100V（エーシー100ボルト）のコンセントに差し込みます。

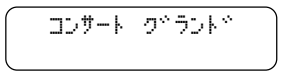


□操作２

POWER（パワー）（電源スイッチ）ボタンを押して電源をオンにします。



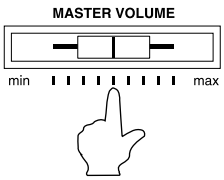
POWER ボタンを押すと音色ボタンの PIANO 1 が点灯し、LCD ディスプレイに「ｺﾝｻｰﾄｸﾞﾗﾝﾄﾞ」と表示されます。



REVERB ボタンも点灯します。

□操作３

MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム） スライダーを中央付近にセットします。



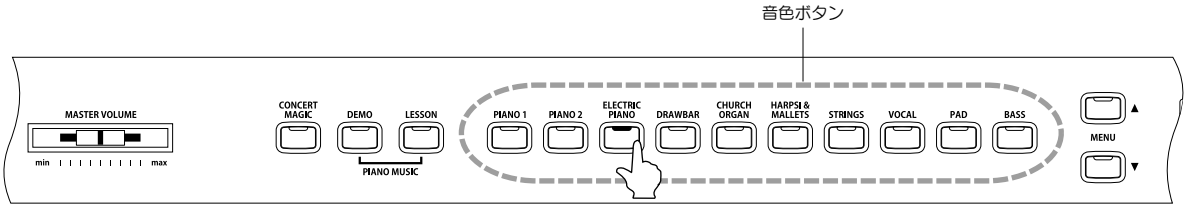
◇ 音色の選び方

パネルには、10 個の音色ボタンがあります。
CA51 は、各音色ボタンに 4 つの音色が割り当てられており、合計 40 音色を内蔵しています。

音色ボタン	CA51
PIANO1 （ピアノ1）	コンサート グランド
	スタジオ グランド
	メロー グランド
	ジャズ グランド
PIANO2 （ピアノ2）	ブライトピアノ
	ホンキートンクピアノ
	ニューエイジ ピアノ 2
	ニューエイジ ピアノ 3
ELECTRIC PIANO （エレクトリックピアノ）	クラシック E.ピアノ
	モダン E.ピアノ
	60's E.ピアノ
	モダン E.ピアノ 2
DRAWBAR （ドローバー）	ジャズ オルガン
	ドローバー オルガン
	ドローバー オルガン 2
	ジャズ オルガン 2
CHURCH ORGAN （チャーチオルガン）	チャーチ オルガン
	ディアパソン
	フル アンサンブル
	オクターブ ディアパソン
HARPSI & MALLETS （ハープシ＆マレッツ）	ハープシコード
	ハープシコード 2
	ビブラフォン
	クラビ
STRINGS （ストリングス）	スロー ストリングス
	シンセ ストリングス
	メロー ストリングス
	ストリング アンサンブル
VOCAL （ボーカル）	クワイア
	ポップ ボーカル
	ポップ ボーカル 2
	クワイア 2
PAD （パッド）	ファンタジー
	ファンタジー 2
	ファンタジック クワイア
	ファンタジー 3
BASS （ベース）	ウッド ベース
	エレクトリック ベース
	フレットレス ベース
	W.ベース & シンバル

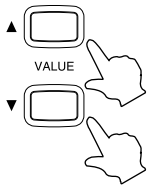
□操作 1

音色を選びましょう。



押された音色ボタンのランプが点灯し、選択されます。
1つの音色ボタンに複数の音色が割り当てられており、選択されているボタンを再度押すと同じ音色ボタンに割り当てられている他の音色が選択されます。

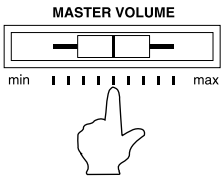
■VALUE ボタンで音色を切り替えることもできます。

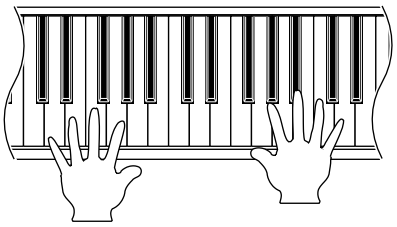


□操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ音色が鳴ります。
MASTER VOLUME スライダー でお好みの音量に設定できます。





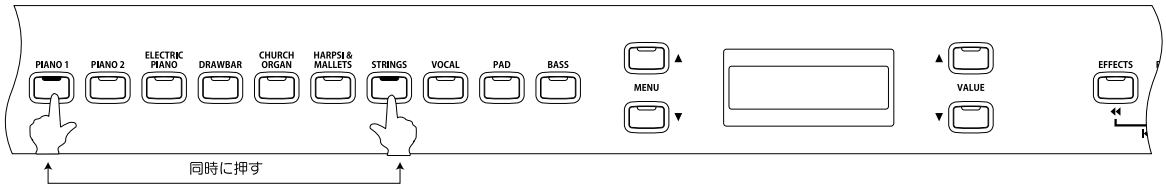
■複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大 96 音です。（音色によって異なります）

2）デュアル演奏

デュアルとは２つの音色を重ね合わせる機能です。
２つの音色が同時に発音され音楽表現の幅が広がります。

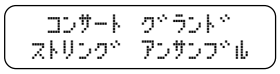
□操作１

２つの音色ボタンを同時に押します。



重ね合わせる２つの音色ボタンを同時に押すと２つの音色ランプが点灯しディスプレイに２つの音色名が表示されます。（先に押した音色がディスプレイの１行目に表示されます。）

例えば、PIANO1 と STRINGS の音を重ね合わせる場合、図の様に PIANO1 ボタンと STRINGS ボタンを同時に押します。



上のデュアル演奏の状態から、ｽﾄﾘﾝｸﾞｽ ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙをｽﾛｰｽﾄﾘﾝｸﾞｽに変更する場合は、PIANO1 ボタンを押しながら STRINGS ボタンを再度押します。

同じボタンの中の２音色を重ね合せて発音させることもできます。
例えば、PIANO1ボタンに割り当てられている「ｺﾝｻｰﾄｸﾞﾗﾝﾄﾞ」と「ﾒﾛｰｸﾞﾗﾝﾄﾞ」の音色を重ね合せる場合は、PIANO1 ボタンで「ｺﾝｻｰﾄｸﾞﾗﾝﾄﾞ」を選択した後、そのまま PIANO1 ボタンを押しながら VALUE ボタンで「ﾒﾛｰｸﾞﾗﾝﾄﾞ」を選びます。

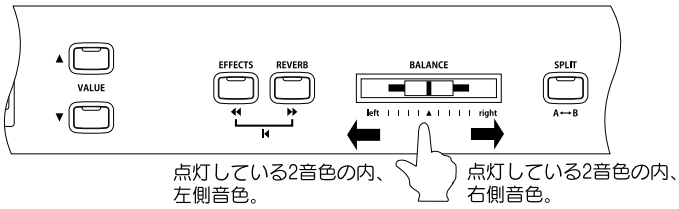
□操作２

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した２つの音色が重なって鳴ります。

□操作３

BALANCE（バランス）スライダーを動かして、
２つの音色の音量バランスを設定します。



□操作４

デュアル演奏の解除は、音色ボタン のいずれかを１つ押します。

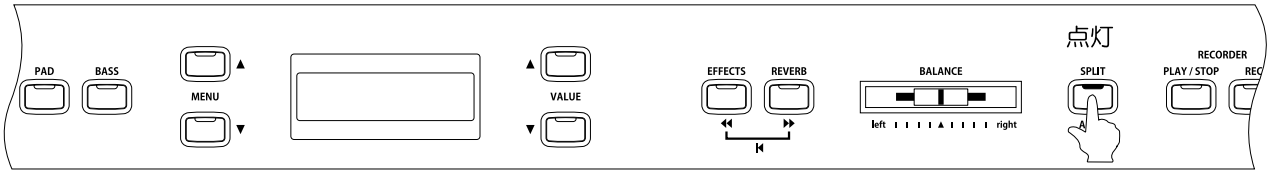
押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

3）スプリット演奏

スプリットポイントを境に鍵盤を左右２つに分け、鍵盤の高音側、低音側それぞれに別々の音色を設定しアンサンブル演奏をすることができます。

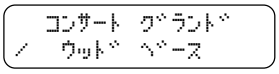
□操作１

スプリット
SPLIT ボタン を押します。



SPLIT ボタン のランプが点灯します。
音色ボタンの中で点灯しているボタンと点滅しているボタンがあります。

点灯している音色ボタンは、SPLIT ボタンを押す前に選ばれている音色で、高音側の音色です。
点滅している音色ボタンは、低音側の音色で初期設定されているベース音色です。
ディスプレイには選ばれている２音色が表示されます。

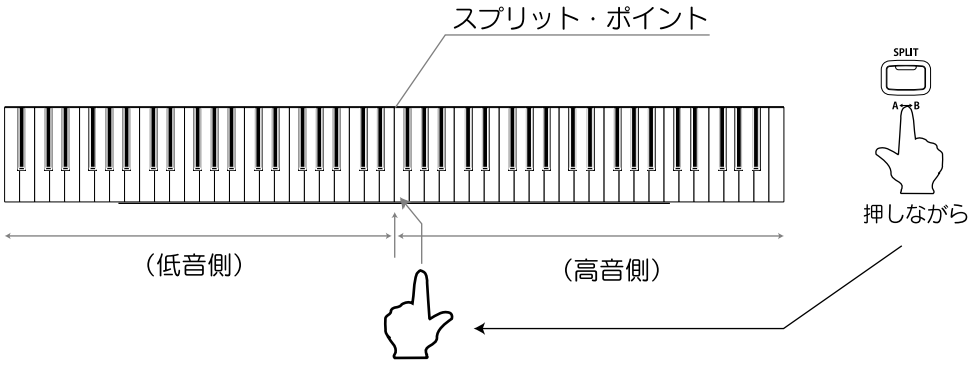


ディスプレイ左下には、スプリット状態であることを示す（／）マークが表示されます。
スプリットポイントは、中央のＣ（ド）に設定されています。

□操作２

スプリット
スプリットポイントを変更したい場合は、SPLIT ボタン を押しながら鍵盤を押します。

押した鍵盤が、高音側の最低音になります。



□操作３

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば、スプリットポイントを境に別々の音色で鳴ります。
右手でコードとメロディー、左手でベースラインを弾いて
アンサンブル演奏を楽しむことができます。

□操作４

高音側の音色は、音色ボタンを押して変更します。

押した音色ボタンのランプが点灯します。
同じ音色ボタンをつづけて２回以上押すと、その音色グループ内での音色変更ができます。

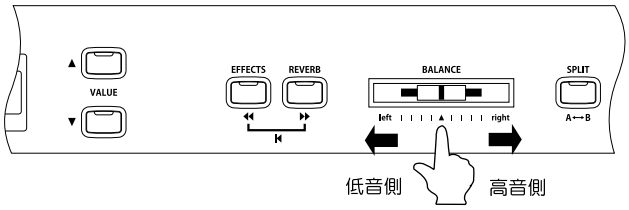
□操作５

低音側の音色は、SPLIT（スプリット）ボタンを押しながら音色ボタンを押して変更します。

押した音色ボタンのランプが点滅します。
同じ音色ボタンをつづけて２回以上押すと、その音色グループ内での音色変更ができます。

□操作６

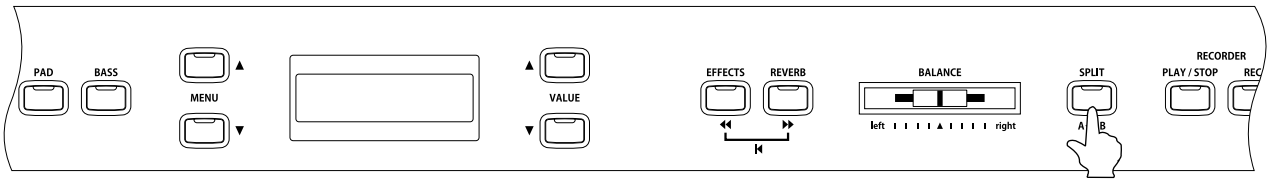
BALANCE（バランス）スライダーを動かして、
高音側と低音側の音量バランスを設定します。



□操作７

スプリット演奏を解除する時は、再度 SPLIT（スプリット）ボタンを押します。

SPLIT ボタンのランプが消灯します。



■低音側鍵盤の音に、オクターブシフトを設定することができます。（P.59 参照）

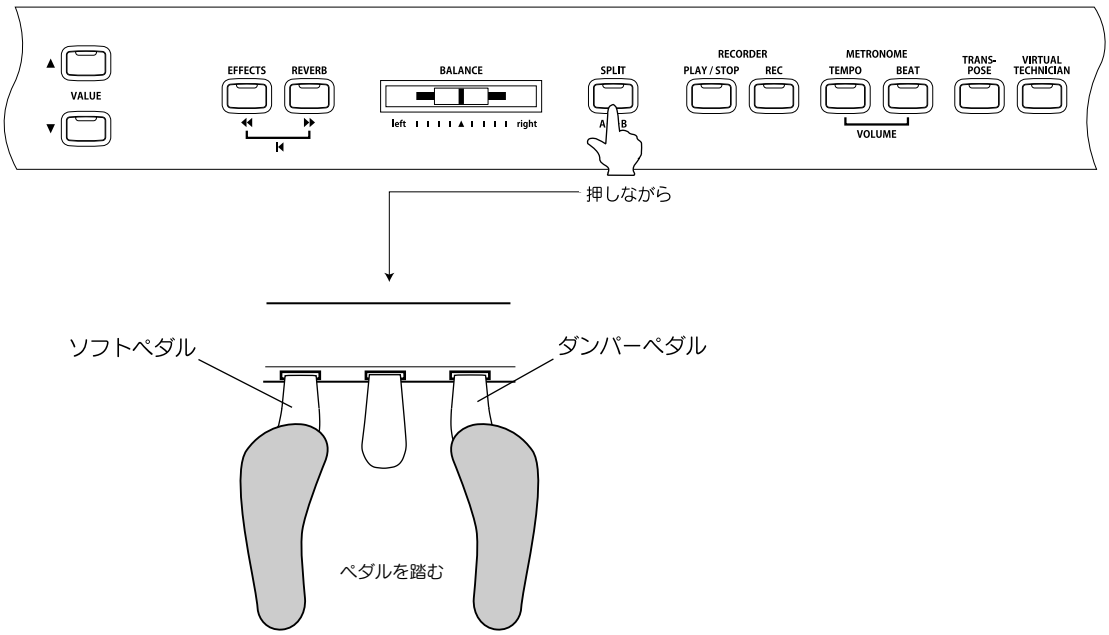
■低音側鍵盤の音に、ダンパーペダルのオン / オフの設定ができます。（P.59 参照）

4）連弾演奏

スプリットポイントを境にして右側と左側に鍵盤を分け、それぞれ同じ音域で演奏することができます。
この時、ダンパーペダル（右ペダル）は右側の鍵盤のダンパーペダルとして、ソフトペダル（左ペダル）は左側の鍵盤のダンパーペダルとして動作しますので、まるで2台のピアノのようにアンサンブル演奏を楽むことができます。また、ペダルを使った曲のレッスンにも役立ちます。

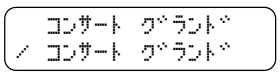
□操作 1

SPLIT（スプリット）ボタンを押しながらダンパーペダル（右ペダル）とソフトペダル（左ペダル）を踏みます。



SPLIT ランプが点滅し、連弾演奏ができる状態になります。

上段に右側の音色、下段に左側の音色が表示されます。



■電源オン時は両方ともコンサートグランドに設定されています。

通常のスプリット演奏と同じように、右側・左側の音色、スプリットポイント、左右の音色のバランスの設定が出来ます。（P.12,13 参照）

■通常の演奏時に対して、右側の鍵盤の音程は 2 オクターブ下がり、左側の鍵盤の音程は 2 オクターブ上がります。
また、左側の鍵盤にはロワーオクターブシフトを設定することができます。（P.59 参照）

■これらの設定は、通常のスプリット演奏のときに使用する設定とは別のものですので、スプリット演奏の時の設定が変更されることはありません。

□操作 2

連弾演奏を解除する時は、再度 SPLIT（スプリット）ボタンを押します。

SPLIT ボタンのランプが消灯します。

5）リバーブ/エフェクト

5種類のリバーブと7種類のエフェクトを装備しています。

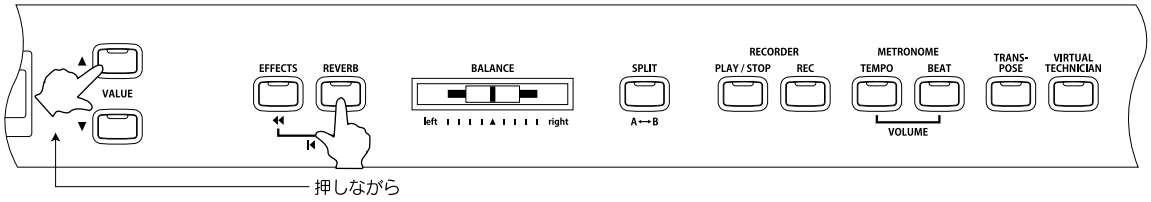
◇ 音に REVERB（リバーブ）を加える

リバーブを加えると、音に残響効果が加わり深みのある美しい響きが得られます。
以下の5種類のリバーブを用意しています。

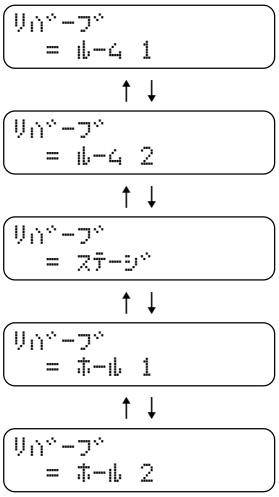
■ルーム1、2　：室内で演奏している時にかかる残響効果が得られます。
　ルーム2の方が長い残響時間が得られます。
■ステージ　：ステージで演奏している時にかかる残響効果が得られます。
■ホール1、2　：ホールで演奏している時にかかる残響効果が得られます。
　ホール2の方が長い残響時間が得られます。

□操作 1

REVERB（リバーブ）ボタン を押しながら VALUE（バリュー）ボタンを押すたびにリバーブの種類がディスプレイに表示されます。
選択するリバーブの種類をディスプレイに表示させ、REVERB ボタンから手を離します。



REVERB ボタンを押している間、ディスプレイに今選ばれているリバーブの種類が表示されます。



REVERB ボタン を押して消灯させると、音色のリバーブ効果は解除されます。
再度REVERB ボタン を押して点灯させると、前回選択していた種類のリバーブ効果が加えられます。

REVERB ボタン を離すとディスプレイの画面は音色表示になります。

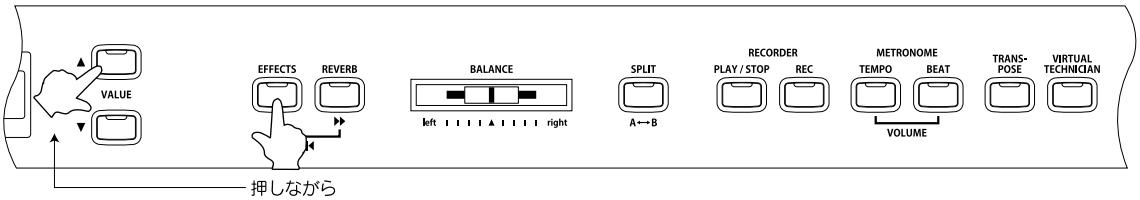
◇ 音に EFFECTS（エフェクト）を加える

CA51 は次のエフェクトを装備しています。

■コーラス　　：音にピッチのゆらぎをもつ音を合わせることにより、音に広がりを加えます。
■ディレイ　　：音に山びこのような反響音を加える効果です。
　　CA51 では 3 種類のディレイ効果を用意しています。
■トレモロ　　：音に " ゆらぎ " を与える効果です。
■ロータリー 1：ロータリー（回転式）スピーカーを使って得られる効果です。
　　ソフトペダル（P.7 参照）を押すことによって回転の速さを切り換えることができます。
■ロータリー 2：上記のロータリー効果に歪み効果を加えます。

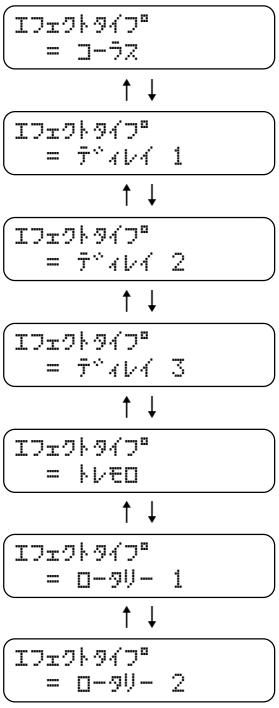
□操作 1

EFFECTS（エフェクト）ボタン を押しながら VALUE（バリュー）ボタンを押すたびにエフェクトの種類が画面に表示されます。
選択するエフェクトの種類を画面に表示させ EFFECTS ボタンから手を離します。



EFFECTS ボタン を押している間､ディスプレイに今選ばれている効果の種類が表示されます。

EFFECTS ボタン を押して消灯させると、音色の効果は解除されます。
再度 EFFECTS ボタン を押して点灯させると、前回選択していた種類の効果が加えられます。



◇ コーラス / ディレイ / トレモロ / ロータリー効果のかかり具合を変える

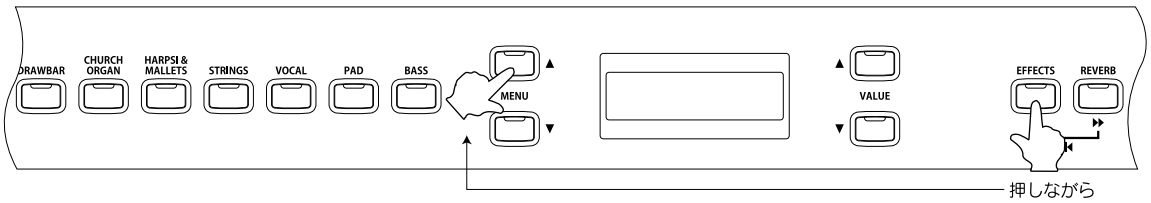
■コーラス　：ゆらぎの速さ、かかりの深さを変えることができます。
■ディレイ　：3種類のディレイそれぞれについて、反響音の間隔と強さを変えることができます。
■トレモロ　：ゆらぎの速さと大きさを変えることができます。
■ロータリー　：2種類のロータリーそれぞれについて、速い方のスピード、遅い方から速い方（あるいはその逆）に変化するスピードを変えることができます。

□操作 1

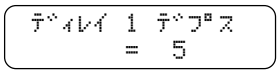
EFFECTS（エフェクト）ボタン を押しながら VALUE（バリュー）ボタンを押してかかり具合を変更したいエフェクトを選びます。

□操作 2

EFFECTS（エフェクト）ボタン から指を離さずに MENU（メニュー）ボタンを押して変更したい項目を選びます。

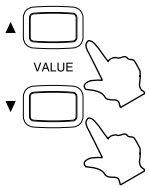


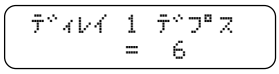
エフェクトタイプ	変 更 で き る 項 目
コーラス	デプス（深さ）、スピード（速さ）
ディレイ 1,2,3	デプス（強さ）、タイム（間隔）
トレモロ	デプス（大きさ）、レイト（速さ）
ロータリー 1,2	アクセルスピード（遅い方から速い方、速い方から遅い方に変化する際のスピード） ロータリースピード（速い方のスピード）



□操作 3

EFFECTS（エフェクト）ボタン から指を離さずに VALUE（バリュー）ボタンを押して変更したい度合いを選びます。





数字を大きくすると、
デプス　：かかり具合が深くなったり大きくなります。
レイト　：速さが速くなります。
タイム　：間隔が長くなります。
スピード　：速さが速くなります。

□操作 4

EFFECTS（エフェクト）ボタン から指を離します。

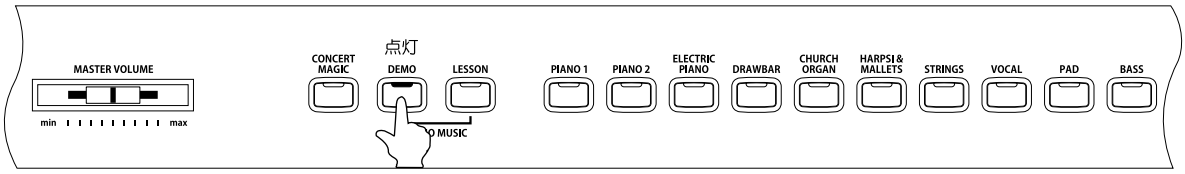
6）デモ曲の演奏

各音色ボタン毎に下表のデモ曲27曲を内蔵しています。
それぞれの音色にあったデモ演奏をお楽しみください。

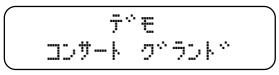
■PIANO1：	
コンサートグランド	：ロマンティックなワルツ/ドビュッシー
スタジオグランド	：カワイオリジナル
メローグランド	：亜麻色の髪の乙女/ドビュッシー
■PIANO2	
ブライトピアノ	：カワイオリジナル
ニューエイジピアノ2	：カワイオリジナル
■ELECTRIC PIANO	
クラシックE.ピアノ	：カワイオリジナル
モダンE.ピアノ	：カワイオリジナル
モダンE.ピアノ2	：カワイオリジナル
■DRAWBER	
ジャズオルガン	：カワイオリジナル
ドローバーオルガン	：カワイオリジナル
ドローバーオルガン2	：カワイオリジナル
■CHURCH ORGAN	
チャーチオルガン	：トッカータ/ジグー
ディアパソン	：主よ人の望みの喜びよ/バッハ
フルアンサンブル	：カワイオリジナル
■HARPSI & MALLETS	
ハープシコード	：フランス組曲第6番/バッハ
ビブラフォン	：カワイオリジナル
クラビ	：カワイオリジナル
■STRINGS	
スローストリングス	：カワイオリジナル
シンセストリング	：カワイオリジナル
ストリングアンサンブル	：四季"春"/ヴィヴァルディ
■VOCAL	
クワイア	：カワイオリジナル
クワイア2	：カワイオリジナル
■PAD	
ファンタジー	：カワイオリジナル
ファンタジー2	：カワイオリジナル
■BASS	
ウッドベース	：カワイオリジナル
フレットレスベース	：カワイオリジナル
W.ベース＆シンバル	：カワイオリジナル

□ 操作１

DEMO（デモ）ボタンを押します。



DEMOボタンのランプが点灯し、音色ボタンが点滅します。そのまま何も操作しなければ、ピアノ１のデモ曲が演奏されます。
ピアノ１のデモ曲の演奏後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。
ディスプレイには、音色名が表示されます。



□ 操作２

操作１でデモ曲演奏中に、音色ボタンを押して曲を変更することができます。

押された音色ボタンのデモ曲を再生した後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。
１つの音色ボタンに複数のデモ曲が内蔵されている場合、そのボタンを繰り返し押すことにより、次の曲を選ぶことができます。

□ 操作３

再度DEMO（デモ）ボタンを押せば、デモ曲の演奏は停止します。

■レコーダーのPLAY/STOPボタンを押しても停止します。

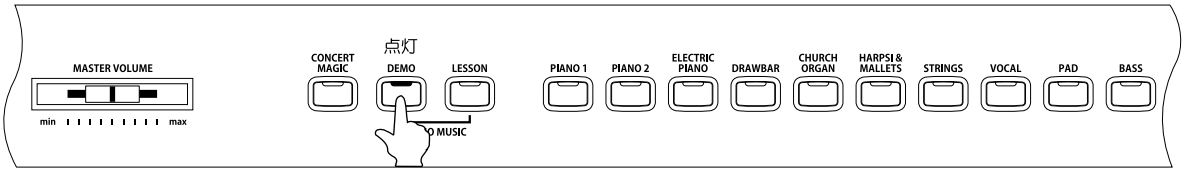
◇ その他のデモ曲

CA51 には、カワイ音楽教室幼児グループコースのテーマ曲等をデモ曲として 4 曲内蔵しています。

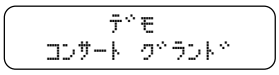
曲　　名	作曲者名
1.　いっしょにあそぼ！	上柴はじめ
2.　くるくるといっしょ―くるくるとさよなら	越部信義
3.　わたしはピコル	佐藤敏直
4.　さようなら	佐藤敏直

□ 操作 1

DEMO（デモ）ボタンを押します。



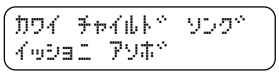
DEMO ボタンのランプが点灯し、音色ボタンが点滅します。そのまま何も操作しなければ、ピアノ 1 のデモ曲が演奏されます。

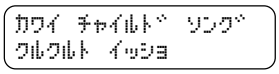


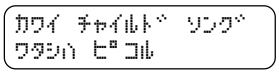
□ 操作 2

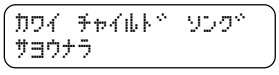
操作 1 でデモ曲演奏中に、VALUE（バリュー）ボタンを押して幼児グループコースのデモ曲に変更することができます。

VALUE ボタンを押すと、1 曲目から順番にデモ曲の演奏がはじまります。
ディスプレイには、曲目が表示されます。



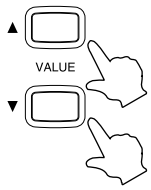






□ 操作 3

VALUE（バリュー）▲▼ボタンを押して曲を選択します。



演奏中も変更することができます。
選曲後、そのまま何もしなければその曲から 4 曲を順に演奏したあと PIANO 1 のデモ曲が演奏されます。
（→ P.18）

□ 操作 4

再度 DEMO（デモ）ボタンを押せば、デモ曲の演奏は停止します。

■レコーダーの PLAY/STOP ボタンを押しても停止します。

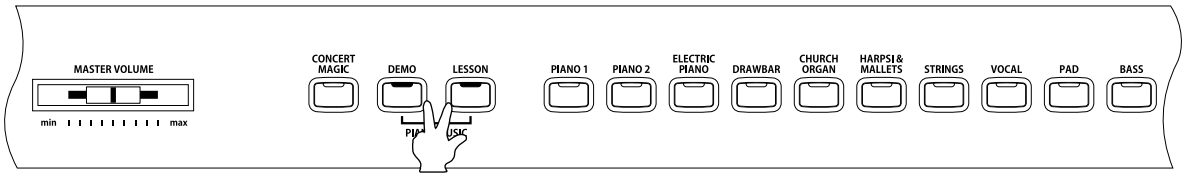
7）ピアノミュージックの演奏

発表会でよく演奏される曲を中心に、バロック時代のラモーの作品からロマン派のショパンまでの作品29曲を内蔵しています。また、対応楽譜「CLASSICAL PIANO COLLECTION」を付属しています。鑑賞や練習にご活用ください。

曲　　名	作曲者名
タンブラン	ラモー
調子のよいかじ屋	ヘンデル
メヌエットト長調（BWV.Anh.114） メヌエットト短調（BWV.Anh.115） メヌエットト長調（BWV.Anh.116）	バッハ
かっこう	ダカン
ガヴォット	ゴセック
メヌエット	ボッケリーニ
主題と変奏〈「ピアノ・ソナタ第11番K.331（300i）」より第１楽章〉 トルコ行進曲〈「ピアノ・ソナタ第11番K.331（300i）」より第3楽章 メヌエット	モーツァルト
ピアノ・ソナタ「月光」より第１楽章 ピアノ・ソナタ「悲愴」より第2楽章 エリーゼのために	ベートーベン
ロンド・ファヴォリ	フンメル
即興曲　作品90の4 楽興の時　作品94の3 間奏曲 即興曲　作品142の3	シューベルト
歌の翼に 春の歌 ロンド・カプリッチョーソ	メンデルスゾーン
別れの曲 雨だれの前奏曲 子犬のワルツ ノクターン第2番 幻想即興曲 軍隊ポロネーズ 英雄ポロネーズ	ショパン

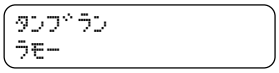
□ 操作 1

DEMO（デモ）ボタンと LESSON（レッスン）ボタンを同時に押します。



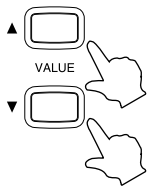
同時に押す

DEMO ボタンと LESSON ボタンのランプが点灯し、
ピアノミュージックの曲選択画面が表示されます。
ディスプレイの上段に曲名、下段に作曲者名が表示されます。



□ 操作 2

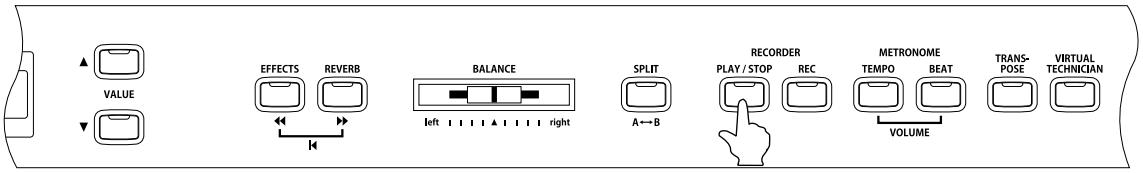
VALUE（バリュー）▲▼ボタンを押して曲を選択します。



演奏中も変更することができます。

□ 操作 3

PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押すと演奏を開始します。



もう一度 PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押すと演奏を停止します。
さらに PLAY/STOP ボタンを押すと停止位置から演奏を再開します。

また、レッスンの練習曲同様、片方のパートだけを再生すること（マイナスワン再生）ができます。詳しくはP.37をご覧ください。

□ 操作 4

DEMO ボタンと LESSON ボタンを同時に押すとランプが消灯し、通常の演奏状態に戻ります。

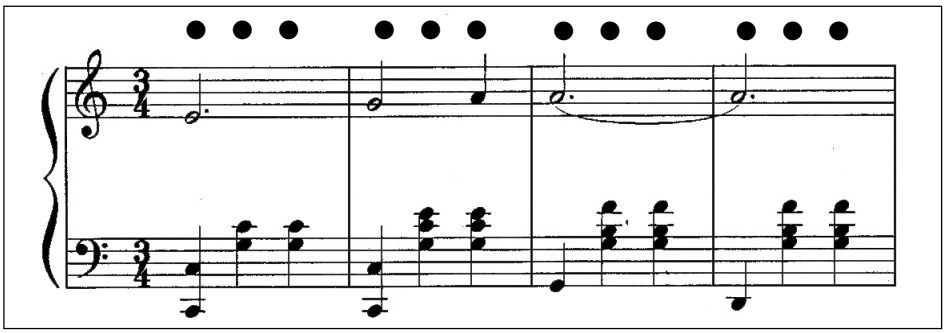
8）コンサートマジック

コンサートマジックとは、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする画期的な機能です。
CA51 にはコンサートマジック曲を 88 曲内蔵しており、次の 3 つのモードで演奏を楽しむことができます。

■マジカルタクト　モード

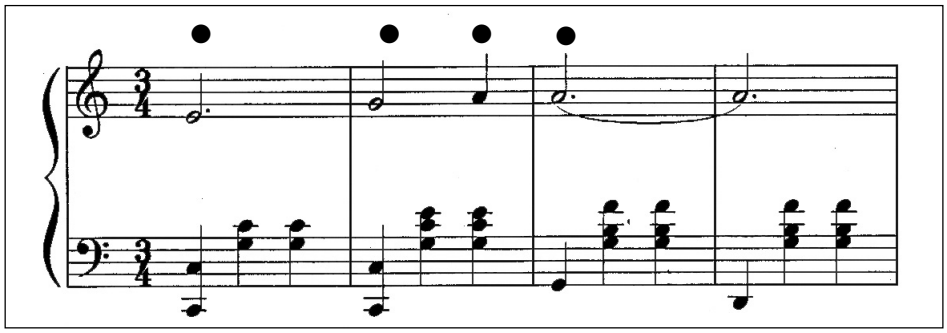
一定の間隔で鍵盤を弾くことで演奏を進めることができます。弾く鍵盤はどの鍵盤でもかまいません。
鍵盤を弾くタイミングや強さでテンポや強弱の表現を変えることができます。

鍵盤を弾くタイミング（曲：スケーターズ・ワルツ）



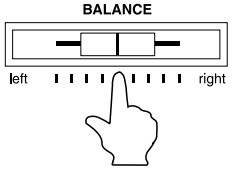
■マジカルメロディー　モード

メロディーのタイミングに合わせて鍵盤を弾くことによって伴奏がついてきます。 弾く鍵盤はどの鍵盤でもかまいません。
鍵盤を弾くタイミングや強さでテンポや強弱の表現を変えることができます。

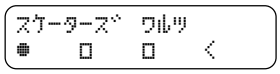


■マジカルメロディー＆キー　モード

メロディーのタイミングに合わせて鍵盤を弾くことによって伴奏がついてきます。 弾いた鍵盤の音が出ますので正しい音を弾きましょう。
BALANCE スライダーを左に動かして自動演奏のメロディパートを消すことができます。



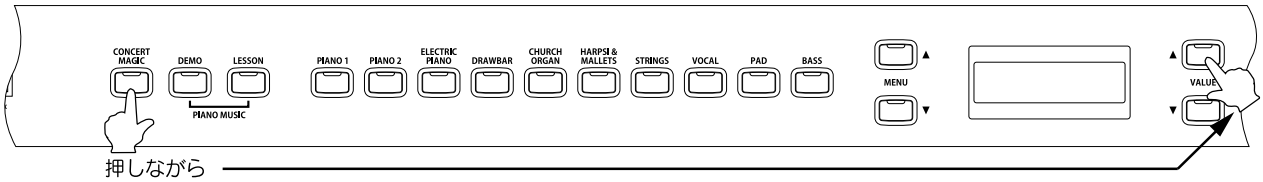
※ LCD ディスプレイの表示例



●は鍵盤を弾くタイミング
□は自動伴奏のタイミングです。
マジカルタクトモード中は、□は表示されません。

□ モードの選び方

CONCERT(コンサート) MAGIC(マジック) ボタンを押しながら VALUE(バリュー) ボタンを押すたびにモード名が画面に表示されます。
選択するモード名を画面に表示させ CONCERT MAGIC ボタンから手を離します。

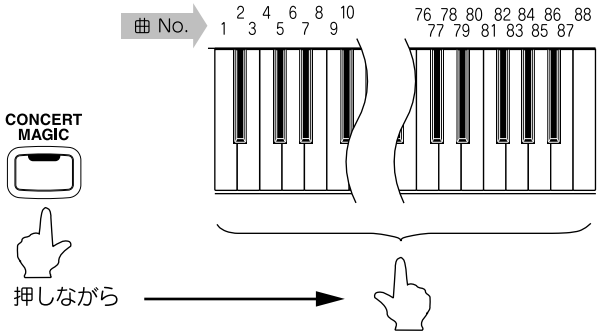


◇ コンサートマジック曲選択と演奏

ここでは、内蔵のコンサートマジック曲を選択します。

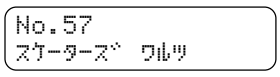
□ 操作 1

CONCERT(コンサート) MAGIC(マジック) ボタンを押しながら鍵盤を押します。



88曲のコンサートマジック曲は、各鍵盤に1曲ずつ割り当てられており、この鍵盤で曲を選択します。
（曲目は、P.26, 27 を参照ください。）

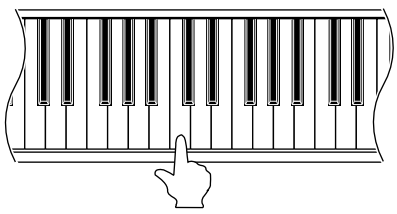
例えば、No.57 の鍵盤で「ｽｹｰﾀｰｽﾞ ﾜﾙﾂ」を選択した場合ディスプレイには右のように表示されます。



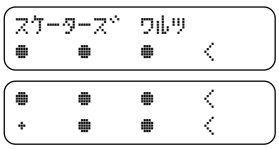
■現在入っているモードを確認する場合、コンサートマジックボタンを押し続けると画面にモード名が表示されます。
■ VALUE ボタンを押して曲目を変更することもできます。

□ 操作 2

ひとつの鍵盤を弾きます。

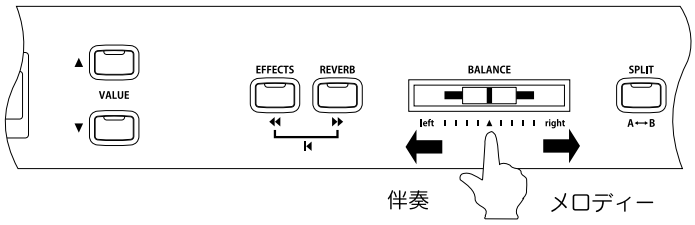


鍵盤を弾くタイミングで演奏が進んでいきます。
鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。
演奏を進めていくに伴って、ディスプレイの黒丸（●）がプラス（+）表示へと変わっていきますので、鍵盤を押すタイミングをつかんでください。



通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

コンサートマジックの曲は、メロディーと伴奏の２パートからできており、BALANCE スライダーで２パートの音量バランスを調整することができます。



□ 操作３

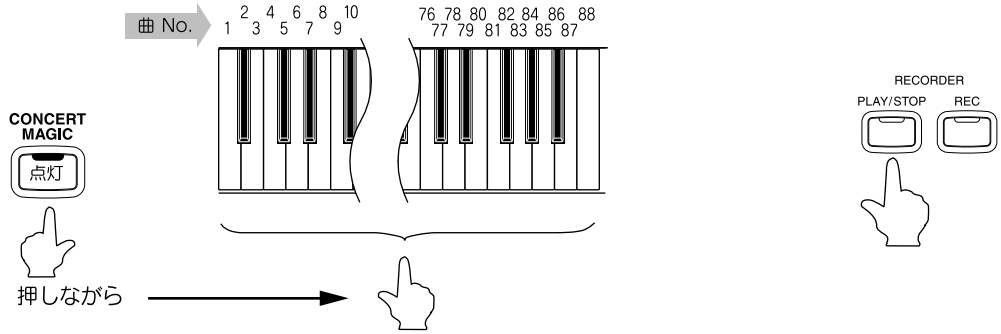
再度 CONCERT(コンサート) MAGIC(マジック) ボタンを押すとランプが消灯し、通常の演奏状態に戻ります。

◇ コンサートマジック曲の再生

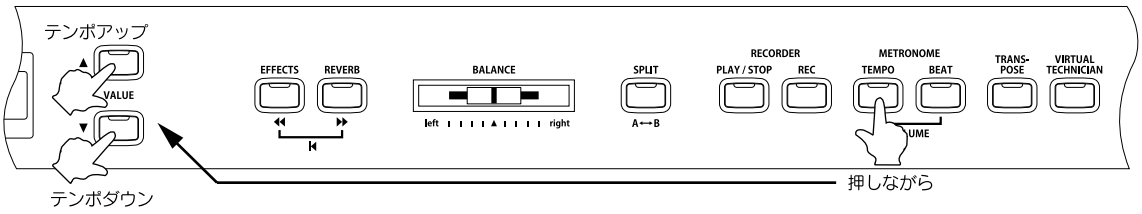
コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。
どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

□ 操作１

CONCERT(コンサート) MAGIC(マジック) ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲した後、PLAY/STOP(プレイ/ストップ) ボタンを押します。



選択されている曲を、もう一度 PLAY/STOP ボタンを押すまで、繰り返し再生し続けます。
TEMPO ボタン押しながら VALUE ボタンを押して曲のテンポを変更できます。



□操作２

もう一度 PLAY/STOP(プレイ/ストップ) ボタンを押せば、演奏は止まります。

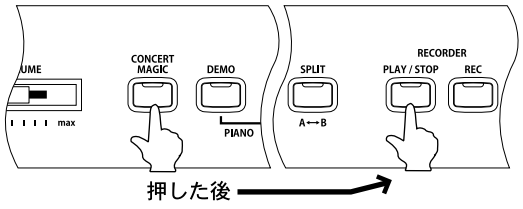
◇ その他の再生方法 （チェイン再生 / グループ再生 / ランダム再生）

■チェイン再生

CONCERT（コンサート） MAGIC（マジック） ボタンを押した後、鍵盤で曲選択をせずに PLAY/STOP（プレイ/ストップ） ボタンを押します。

1 曲目から 88 曲目まで順番に繰り返し再生します。

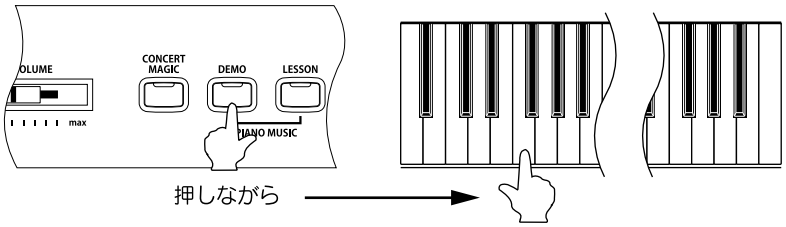
■ VALUE ボタン で曲を選んだ場合はその曲から 88 曲目までを順番に再生します。



■グループ再生

DEMO（デモ） ボタンを押しながら鍵盤を押します。

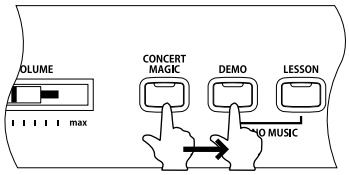
選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。
例えば、No.21 の「ドレミの歌」を選ぶと、この曲から演奏が開始され、No.1 ～ No.27 のグループ「子供の曲」を繰り返し再生します。



■ランダム再生

CONCERT（コンサート） MAGIC（マジック） ボタンを押した後、DEMO（デモ） ボタンを押します。

全コンサートマジック曲を対象に、順不同に曲の再生をし続けます。
但し、1 曲目は「きらきら星」です。



※ PLAY/STOP ボタンを押せば、演奏は止まります。

◇ コンサートマジック曲目

【グループ】	【曲名】	【作曲者】
子供の曲（27曲）		
1	きらきら星	フランス民謡
2	ロンドン橋	イギリス民謡
3	ふるさと	岡野貞一
4	山の音楽家	ドイツ民謡
5	もみじ	岡野貞一
6	ゆき	文部省唱歌
7	七つの子	本居長世
8	10人のインディアン	アメリカ民謡
9	さくらさくら	日本古謡
10	わらの中の七面鳥	アメリカ民謡
11	ひらいたひらいた	わらべうた
12	かくれんぼ	下総皖一
13	虫のこえ	文部省唱歌
14	アイアイ	宇野誠一郎
15	うみ	井上武士
16	おもちゃのチャチャチャ	越部信義
17	かたつむり	文部省唱歌
18	春がきた	岡野貞一
19	もりのくまさん	アメリカ民謡
20	夕やけこやけ	草川信
21	ドレミの歌	O. ハマースタイン、R. ロジャース
22	北風こぞうの寒太郎	福田和禾子
23	ぶんぶんぶん	ボヘミア民謡
24	ゆかいな牧場	アメリカ民謡
25	パフ	P.ヤーロウ、L.リプトン
26	河はよんでいる	G. ベアール
27	こいぬのマーチ	外国曲
ディズニー／アニメ／スクリーン（13曲）		
28	狼なんか怖くない	F.チャーチル
29	チムチムチェリー	シャーマン兄弟
30	ハイホー	F.チャーチル
31	ビビディバビディブー	マークデビッド他２名
32	星に願いを	L.ハーライン
33	小さな世界	シャーマン兄弟
34	ミッキーマウスマーチ	J.ドッド
35	さんぽ	久石譲
36	エーデルワイス	O. ハマースタイン、R. ロジャース
37	チキチキバンバン	シャーマン兄弟
38	虹の彼方に	H.アーレン
39	となりのトトロ	久石譲
40	サザエさん	筒美京平
アメリカのクラシック音楽（9曲）		
41	聖者の行進	アメリカ民謡
42	おじいさんの古時計	アメリカ民謡
43	リパブリック賛歌	アメリカ民謡
44	アルプス一万尺	アメリカ民謡
45	ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡
46	ケンタッキーの我が家	フォスター
47	故郷の人々	フォスター
48	草競馬	フォスター
49	線路は続くよどこまでも	アメリカ民謡

【グループ】	【曲名】	【作曲者】
クラシック（31曲）		
50	喜びの歌	ベートーベン
51	ウィリアムテル序曲	ロッシーニ
52	天国と地獄	オッフェンバック
53	新世界より家路	ドボルザーク
54	エンターティナー	ジョプリン
55	メヌエット　ト長調	バッハ
56	花のワルツ	チャイコフスキー
57	スケーターズ ワルツ	ワルトトイフェル
58	美しく青きドナウ	ヨハン・シュトラウス
59	闘牛士の歌	ビゼー
60	ピチカート ポルカ	ヨハン・シュトラウス
61	ブラームスの子守歌	ブラームス
62	ワシントンポストマーチ	J.P.スーザ
63	アメリカン パトロール	ミーチャム
64	眠りの森の美女	チャイコフスキー
65	ガボット	ゴセック
66	軍隊行進曲	シューベルト
67	ジムノペディ　1番	サティ
68	前奏曲作品28-7	ショパン
69	皇帝円舞曲	ヨハン・シュトラウス
70	メープル リーフ ラグ	ジョプリン
71	双頭のわしの旗のもとに	ワグナー
72	びっくりシンフォニー	ハイドン
73	凱旋行進曲	ヴェルディ
74	エリーゼのために	ベートーベン
75	アヴェマリア	シューベルト
76	ハバネラ	ビゼー
77	ジプシーの歌	ビゼー
78	未完成交響曲	シューベルト
79	結婚行進曲	メンデルスゾーン
80	婚礼の合唱	ワーグナー
クリスマスの曲（4曲）		
81	おめでとうクリスマス	イギリス民謡
82	ジングルベル	ピアポント
83	もろ人こぞりて	讃美歌
84	きよしこの夜	グルーバー
世界の民謡（4曲）		
85	フニクリフニクラ	デンツァ
86	こぎつね	ドイツ民謡
87	アニーローリー	スコットランド民謡
88	サンタルチア	ナポリ民謡

別売コンサートマジック曲集について

「コンサートマジック曲集 Vol.2」では、本体に内蔵されている全コンサートマジック曲の演奏譜とメロディー譜を掲載しています。演奏譜はご自分で曲を演奏するときに、メロディー譜はコンサートマジックでのマジカルメロディーモード又はマジカルメロディー＆キーモードで演奏するときにご利用いただけます。
ご注文方法など詳細は、付属の「楽譜集のご案内」をご覧ください。

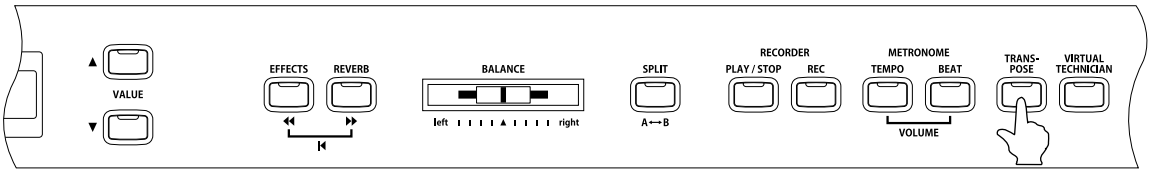
9）トランスポーズ

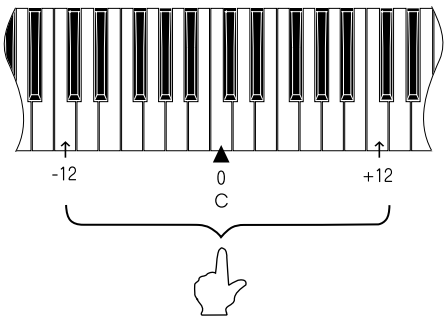
半音単位で調を変えることができます。
調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾く鍵盤を変えずに簡単に移調できます。

□操作１

TRANSPOSE（トランスポーズ）ボタン を押しながら鍵盤を押して移調値を（－12～＋12 [全2オクターブ]）の間で設定します。

TRANSPOSE ボタン のランプが点灯時、設定した値だけ移調されます。またボタンを押している間、ディスプレイに現在の値が表示されます。
電源オン時は、ハ長調（C）に設定されています。





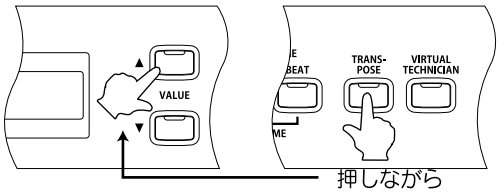
鍵盤中央のド（C）が 0 です。
ディスプレイの２行目に値が表示されます。

□操作２

TRANSPOSE（トランスポーズ）ボタン を押すたびに、オン/オフを設定できます。

ランプが点灯時にオンとなり設定した値だけ移調されます。
値が「0」の場合は、点灯しません。

■ TRANSPOSE ボタン を押しながら VALUE ボタンを押しても移調できます。



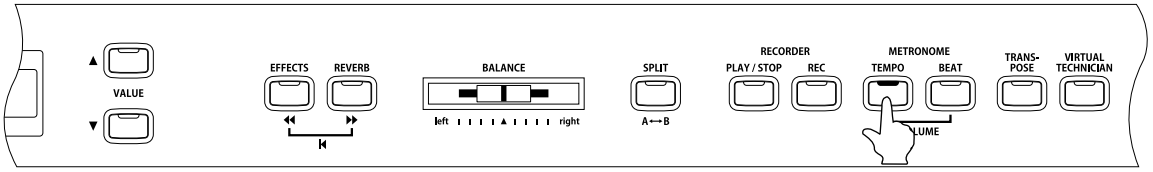
10）メトロノーム / リズム

通常のメトロノーム音による拍子の他、ドラム音色によるポップス/ロック/バラード/ジャズなど多彩なリズムを内蔵しています。
メトロノームを鳴らしてテンポを正しく練習したり、曲にあったリズムを加えて演奏を楽しむことができます。

◇ メトロノーム / リズムの発音とテンポ設定

□操作 1

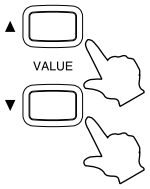
TEMPO（テンポ）ボタンを押します。



TEMPO ボタン が点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイにそのテンポの値が表示されます。

□操作 2

VALUE（バリュー）ボタンを押してテンポを設定できます。



テンポの値を ♩ =10 ～ 400 の範囲で設定できます。
（3/8、6/8、7/8、9/8、12/8 拍子のときは、♪=20 ～ 800）

□操作 3

再度 TEMPO（テンポ）ボタンを押すとメトロノームが止まります。

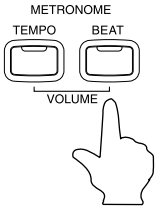
TEMPO ボタンのランプが消灯します。

■コンサートマジックボタンが点灯中は、メトロノームは使用できません。

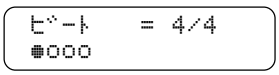
◇ メトロノーム の拍子 / リズムの設定

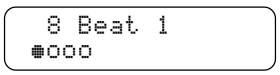
□操作 1

BEAT（ビート）ボタン を押します。



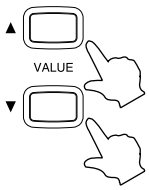
BEAT ボタンが点灯し、ディスプレイにその拍子が表示されメトロノームが発音します。リズムが選ばれている時は、ディスプレイにリズム名が表示され、リズムが発音します。





□操作２

VALUE（バリュー）ボタン を押して拍子 / リズムを選択します。



1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 3/8, 6/8, 7/8, 9/8, 12/8 より選択することができます。
リズムは 100 種類より選択できます。
（リズムの種類は、P.31 を参照ください。）

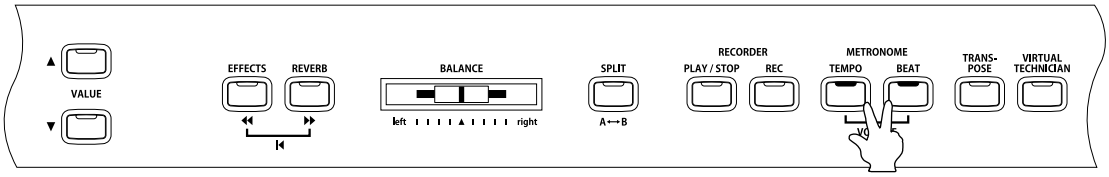
□操作３

再度 BEAT（ビート）ボタン を押すと BEAT ボタンのランプは消灯し、メトロノームまたはリズムが止まります。

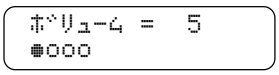
◇ メトロノーム / リズムの音量設定

□操作１

TEMPO（テンポ）ボタンと BEAT（ビート）ボタンを同時に押します。

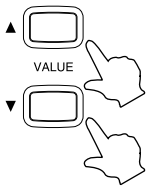


TEMPO ボタンと BEAT ボタンが点灯し、メトロノームまたはリズムが発音します。
ディスプレイにその音量の値が表示されます。



□操作２

VALUE（バリュー）ボタン を押して音量を設定します。



1 ～ 10 の範囲で設定できます。

□操作３

再度 TEMPO（テンポ）ボタンと BEAT（ビート）ボタンを同時に押すとランプが消灯し、メトロノームまたはリズムが止まります。

◇ リズム一覧

No.	リ ズ ム 名
1	8 ビート 1
2	8 ビート 2
3	8 ビート 3
4	16 ビート 1
5	16 ビート 2
6	16 ビート 3
7	16 ビート 4
8	16 ビート 5
9	16 ビート 6
10	ロック ビート 1
11	ロック ビート 2
12	ロック ビート 3
13	ハード ロック
14	ヘヴィ ビート
15	サーフ ロック
16	2nd ライン
17	50 ウェイズ
18	バラード 1
19	バラード 2
20	バラード 3
21	バラード 4
22	バラード 5
23	ライト ライド 1
24	ライト ライド 2
25	スムース ビート
26	リム ビート
27	スロー ジャム
28	ポップ 1
29	ポップ 2
30	エレクトロ ポップ 1
31	エレクトロ ポップ 2
32	ライド ビート 1
33	ライド ビート 2
34	ライド ビート 3
35	ライド ビート 4
36	スリップ ビート
37	ジャズ ロック
38	ファンキー ビート 1
39	ファンキー ビート 2
40	ファンキー ビート 3
41	ファンキー 1
42	ファンキー 2
43	ファンキー 3
44	ファンク シャッフル 1
45	ファンク シャッフル 2
46	バズ ビート
47	ディスコ 1
48	ディスコ 2
49	ヒップ ホップ 1
50	ヒップ ホップ 2

No.	リ ズ ム 名
51	ヒップ ホップ 3
52	ヒップ ホップ 4
53	テクノ 1
54	テクノ 2
55	テクノ 3
56	ヘヴィ テクノ
57	8 シャッフル 1
58	8 シャッフル 2
59	8 シャッフル 3
60	ブギ
61	16 シャッフル 1
62	16 シャッフル 2
63	16 シャッフル 3
64	T シャッフル
65	トリプレット 1
66	トリプレット 2
67	トリプレット 3
68	トリプレット 4
69	トリプレット バラード 1
70	トリプレット バラード 2
71	トリプレット バラード 3
72	モータウン 1
73	モータウン 2
74	ライド スウィング
75	H.H. スウィング
76	ジャズ ワルツ 1
77	ジャズ ワルツ 2
78	5/4 スウィング
79	タム スウィング
80	ファースト 4 ビート
81	H.H. ボサノバ
82	ライド ボサノバ
83	ビギン
84	マンボ
85	チャ チャ
86	サンバ
87	ライト サンバ
88	スルド サンバ
89	ラテン グルーブ
90	アフロ キューバン
91	ソンゴ
92	ベンベ
93	アフリカン ベンベ
94	メレンゲ
95	レゲエ
96	タンゴ
97	ハバネラ
98	ワルツ
99	ラグタイム
100	カントリー & ウエスタン

3. レッスン機能の使い方

CA51 はピアノの上達に役立つ練習曲を内蔵し、楽しみながら様々なレッスンをすることができます。

1. 練習曲機能　　バイエル、チェルニーなどの練習曲を聴きながら右手、左手別々に練習することができます。
2. 指のトレーニング機能　ハノン（第一部 20 曲）を演奏・録音すると、タッチのばらつき等の評価がディスプレイに表示され、自分の演奏をチェックすることができます。

1）練習曲機能を使って

CA51 は、次の見本曲集を内蔵しています。

1. バイエルピアノ教則本全曲（ただし予備練習、付録を除く）（カワイ出版）
2. ブルクミュラー 25 の練習曲全曲（カワイ出版）
3. チェルニー 100 番練習曲全曲（カワイ出版）
4. チェルニー 30 番練習曲全曲（カワイ出版）
5. ソナチネ・アルバム 1（カワイ出版）
6. バッハ・インヴェンション（カワイ出版「バッハ・インヴェンションとシンフォニア」INVENTIO1 ～ 15）

内蔵曲集から 1 曲を選んで次のような練習ができます。

1. 見本曲を再生して曲想を覚える。
2. 見本曲の左手パートを再生しながら右手パートを練習する。
3. 見本曲の右手パートを再生しながら左手パートを練習する。
4. テンポを変更して練習する。
5. 曲の途中の部分を繰り返して練習する。
6. 見本曲の左手パートを再生しながら右手パートの演奏を録音して聴いてみる。
7. 見本曲の右手パートを再生しながら左手パートの演奏を録音して聴いてみる。

■これら練習曲のテンポは、お子様が無理なく練習できるように一部の曲を除いて遅くしてあります。
■設定されているテンポよりも遅くして再生した時、ブルクミュラーの一部の曲ではフェルマータの長さが変らない場合があります。
■練習時にお子様の指に無理な負担をかけないように、チェルニーの一部の曲を除いて強打時（フォルテ）の音量を下げてあります。

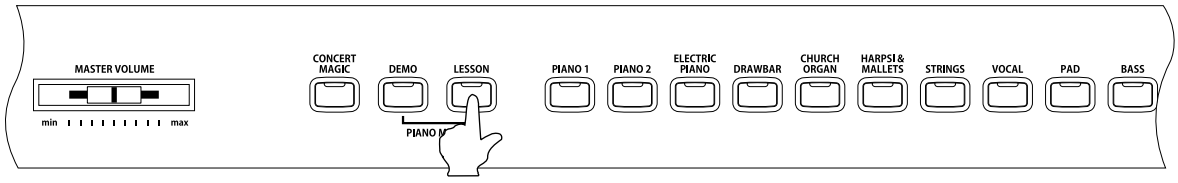
なお、練習するための楽譜はカワイ出版のものをご使用下さい。

■バッハ・インヴェンションの強弱起号などの表現記号については、カワイ出版楽譜、他を参考にしています。

◇ 練習したい曲を選ぶ

□操作１

LESSON（レッスン）ボタンを押します。



ディスプレイが練習曲選択画面になり、１行目に曲集名ー曲番号、２行目に演奏小節とテンポが表示されます。

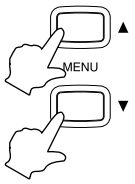
```
ﾊﾞｲｴﾙ -001
Bar=  1- 1 ♩=092
```

■この時「バイエル１番テーマ」が選択されています。

□操作２

MENU（メニュー）ボタンを押して練習したい曲集を選びます。

バイエル、ブルクミュラー、チェルニー、ソナチネ、インヴェンションの中から選びます。



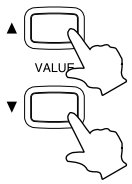
▲ボタンを押すと次の順序で曲集名がディスプレイに表示されます。

```
ﾊﾞｲｴﾙ -001          → ﾌﾞﾙｸﾐｭﾗｰ25 -01        → ﾁｪﾙﾆｰ100 -001
Bar=  1- 1 ♩=092      Bar=  1- 1 ♩=126       Bar=  1- 1 ♩=088
                                                      ↓
ﾊﾟｯﾊｲﾝｳﾞｪﾝｼｮﾝ-01 ← ｿﾅﾁﾈ1 -01-1      ← ﾁｪﾙﾆｰ30 -01
Bar=  1- 1 ♩=063      Bar=  1- 1 ♩=138       Bar=  1- 1 ♩=120
```

再生中でも操作可能です。ただし練習を録音中の場合は操作できません。

□操作３

VALUE（バリュー）ボタンを押して練習したい曲番号を選びます。




```
ﾊﾞｲｴﾙ -001-12
Bar=  1- 1 ♩=092
```

バイエル	：001、001-01 ～ 001-12、002、002-01 ～ 002-08、003 ～ 106
ブルクミューラー 25	：01 ～ 25
チェルニー 100	：01 ～ 100
チェルニー 30	：01 ～ 30
ソナチネ・アルバム 1	：01 ～ 30 ※
インヴェンション	：01 ～ 15

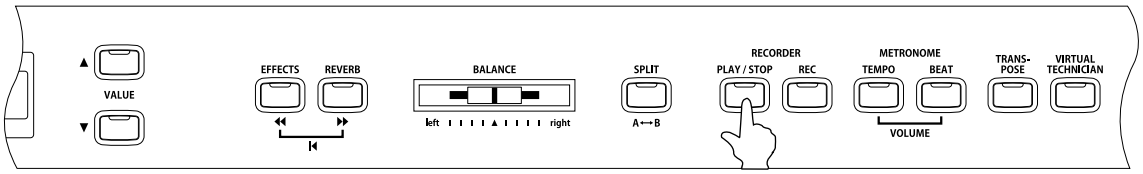
※幾つかの楽章に分かれている曲の場合は、曲番号の後ろに楽章番号がつきます。

再生中でも操作可能です。ただし練習を録音中の場合は操作できません。

◇ 見本曲を聴く

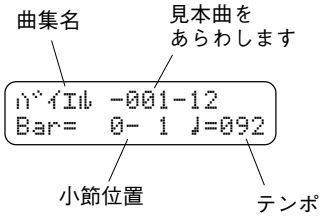
□操作１

RECORDER（レコーダー）の PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。



メトロノームが１小節鳴った後、見本曲が再生されます。

■この間は現在の位置より１小節前の小節が表示されます。
■弱起の曲の場合、最初の小節位置はゼロになります。



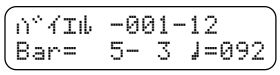
見本曲再生中はメトロノームが再生されませんが、メトロノームを鳴らしたい場合には、METRONOME の TEMPO ボタンをオンにします。

テンポを変更して聴きたい場合には、TEMPO ボタンを押しながら VALUE ボタンを押します。
▼で遅く、▲で速くなります。
変更した後、元のテンポに戻す場合には VALUE の▲と▼ボタンを同時に押します

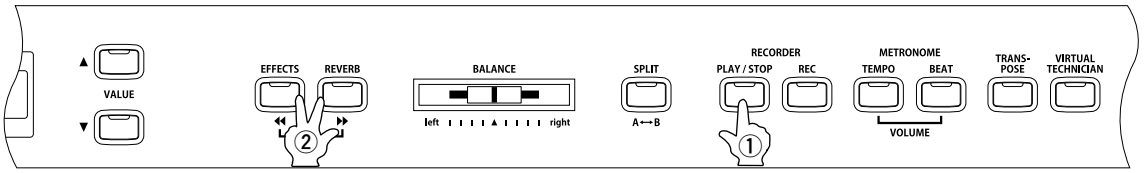
□操作２

RECORDER（レコーダー）の PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンをもう一度押します。

見本曲の再生が止まります。



もう一度 PLAY/STOP ボタンを押すと、１小節メトロノームが鳴った後、止めた小節の最初から再生が始まります。
最初から再生したい場合には、PLAY/STOPボタンを押して演奏を止めてから、◀◀と▶▶ボタンを同時に押します。

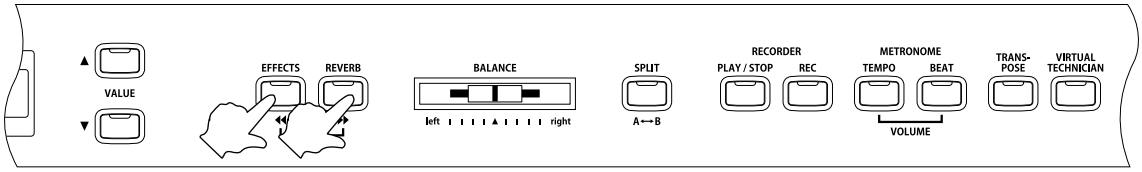


押してから

◇ 見本曲の途中から再生する

□操作１

⏩ボタン、または⏪ボタンを押します。

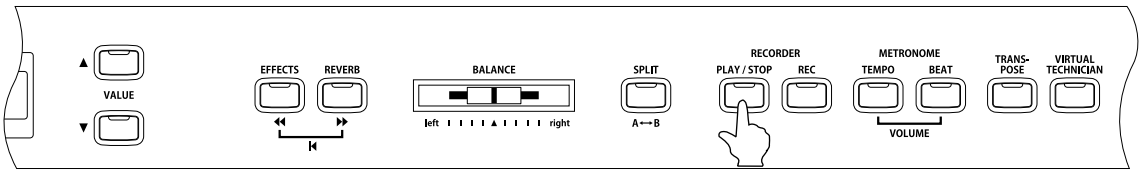


⏩ボタンを押すと１小節進みます。⏪ボタンを押すと１小節戻ります。押し続けると早く進み（戻り）ます。

再生中でも操作可能です。

□操作２

PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。



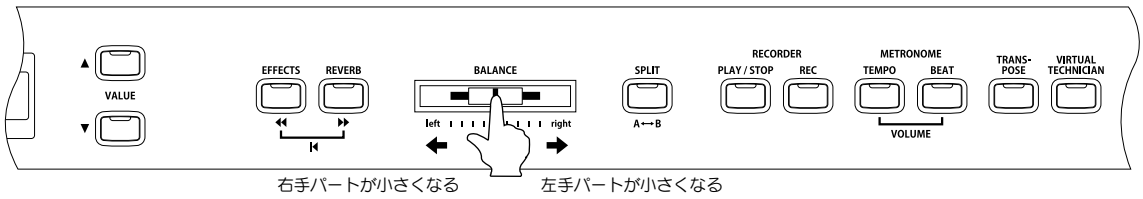
１小節メトロノームが鳴った後、指定した小節から再生が始まります。

◇ 見本曲の片方のパートを再生しながら、もう片方のパートを練習する

見本曲の片方のパートだけを再生することを「マイナスワン再生」といい、片方のパートを再生させながらもう片方のパートを練習することを「マイナスワン練習」と言います。

□操作 1

見本曲を選んだ後、BALANCE（バランス）スライダーを右、あるいは左に動かします。



■見本曲の左手パートを再生しながら右手パートを練習したい場合
スライダーを左に動かします。左に動かすと見本曲の右手パートが小さくなり、ガイドメロディとなります。左端にすると右手パートは聴こえなくなり、ガイドメロディなしで練習できます。

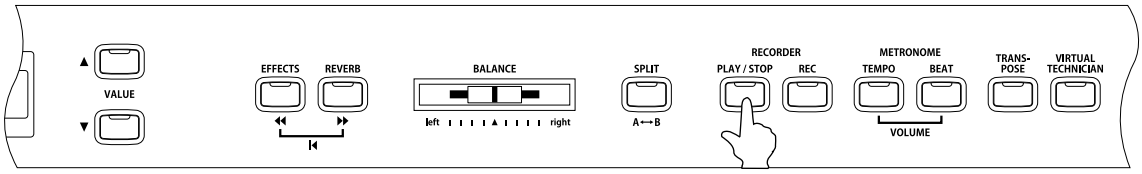
■見本曲の右手パートを再生しながら左手パートを練習したい場合
スライダーを右に動かします。右に動かすと見本曲の左手パートが小さくなり、ガイドメロディとなります。右端にすると左手パートは聴こえなくなり、ガイドメロディなしで練習できます。

■自分のパートの見本を再生しながら合わせて演奏した場合、弾く音程やタイミングによっては音質が変化することがありますが、これは故障ではありません。気になる場合は、見本曲の再生を小さくするか、消して下さい。

■バイエルの中で先生の伴奏がついている曲の場合には、スライダーを左にすると生徒のパートが小さくなり、右にすると先生のパートが小さくなります。

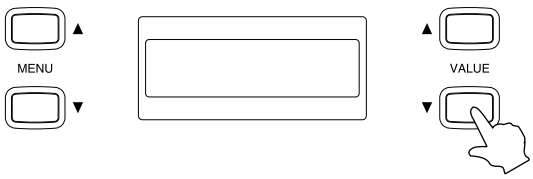
□操作 2

RECORDER（レコーダー）の PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。



メトロノームが1小節鳴った後、セットしたスライダーの状態で見本曲の再生が始まりますので、見本曲に合わせて片方のパートを演奏して練習します。

TEMPO ボタンを押しながら VALUE ▲▼ボタンを押してテンポを変更できます。
遅いテンポで練習したい場合には、VALUE ボタンの▼を押します。▲を押すと速くなります。
元のテンポに戻す場合には VALUE の▲と▼ボタンを同時に押します。

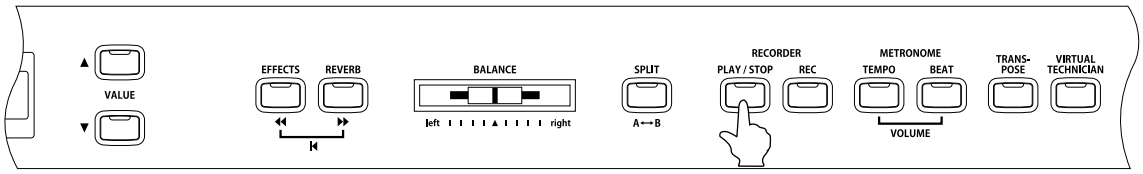


◇ 見本曲の途中を繰り返して練習する

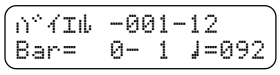
見本曲の中の小節位置を2ヶ所指定してその区間を繰り返し再生したり（リピート再生）、繰り返してマイナスワン練習をすることができます。

□操作１

RECORDER（レコーダー）の PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。

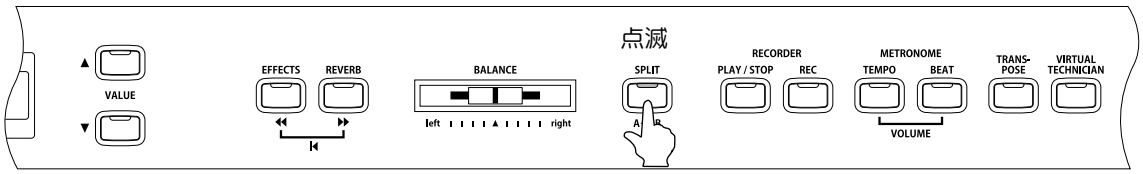


メトロノームが１小節鳴った後、見本曲が再生されます。

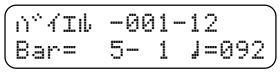


□操作２

繰り返し演奏を始めたい位置まで再生が進んだらA↔Bボタンを押します。



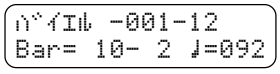
繰り返しの最初の小節が設定され、A↔Bボタンのランプが点滅します。



□操作３

繰り返し演奏を終わりたい位置まで再生が進んだらもう一度A↔Bボタンを押します。

繰り返しの終わりの小節が設定され、 A↔BボタンのLEDが点灯します。
これで繰り返し区間が決定し、この小節の再生が終了すると、繰り返しの最初の小節に戻って再生を続けます。

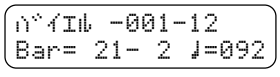


□操作４

さらにもう一度 A↔Bボタンを押すと繰り返し再生が解除され、通常の再生を続けます。

A↔Bボタンのランプが消灯します。

■ここで設定したリピート区間（最初の小節と最後の小節）は、リピートを解除するか、別の曲を選ぶか、練習曲モードを終了するまでは本体に記憶されています。



また、リピート区間は、停止中に⏩ボタン、⏪ボタンで小節位置を選んで設定することもできます。

■最初の小節より前の位置に終わりの小節を設定することはできません。

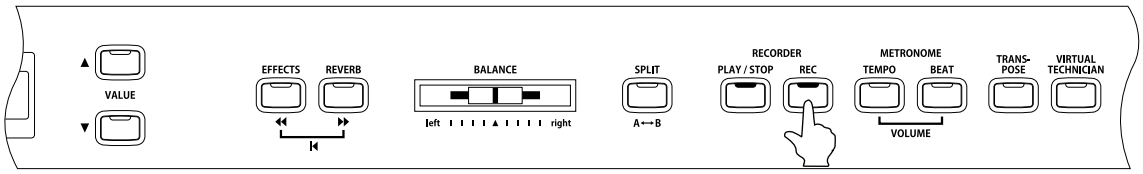
◇ 見本曲に合わせて録音する

見本曲をマイナスワン再生しながら、片方のパートの自分の演奏を録音した後、それを聞いて自分でチェックすることができます。

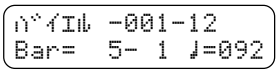
■リピート再生の設定をしている場合、リピートは無効になります。

□操作 1

REC（レック）ボタンを押します。



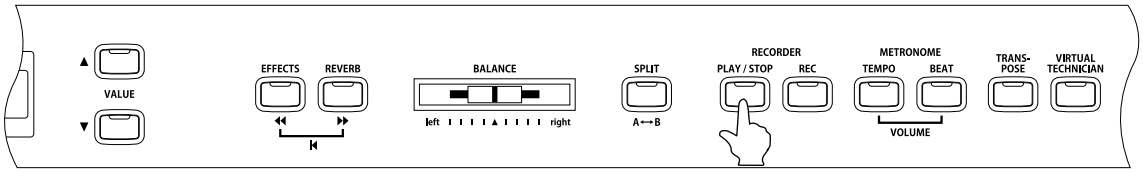
RECボタンのランプとPLAY/STOPボタンのランプが点灯し、メトロノームが１小節鳴った後、見本曲の再生と演奏の録音が始まります。



録音をはじめる前に、▶▶ボタンと◀◀ボタンで録音開始位置を変えることができます。
BALANCE スライダーで見本曲の右手、左手パートの音量を変えることができます。

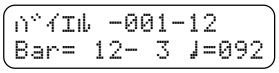
□操作 2

PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押して、録音を終わります。



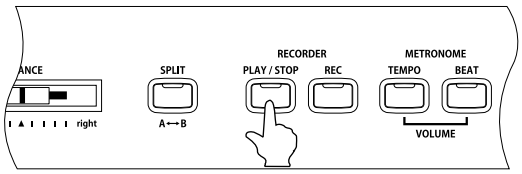
見本曲の再生と演奏の録音が終了し、REC ボタンと PLAY/STOP ボタンのランプが消灯します。
録音した演奏は REC ボタンと PLAY/STOP ボタンを同時に押すと消去することができます。

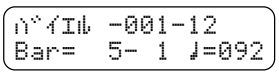
■録音した演奏は別の見本曲を選ぶと消去されます。



□操作 3

もう一度 PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。



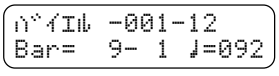


メトロノームが１小節鳴ったあと見本曲と録音した演奏が再生されます。

▶▶ボタンと◀◀ボタンで再生開始位置を変えることができます。
BALANCE スライダーで見本曲の右手、左手パートの音量を変えることができます。

□操作 4

PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。



見本曲と練習の演奏が止まります。

◇ レッスン機能を終了する

□操作 1

LESSON（レッスン）ボタンを押して終了します。

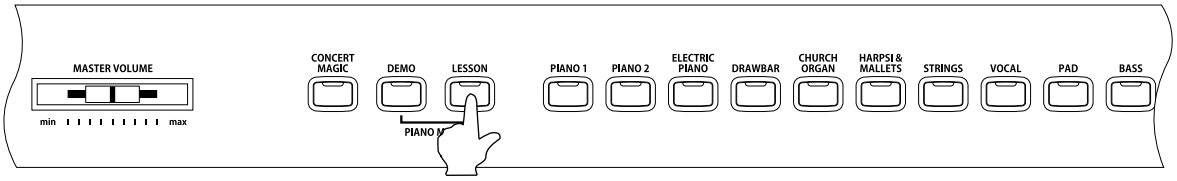
2）指のトレーニング機能を使って

内蔵しているハノン第一部 20 曲からひとつを選んで練習します。
選んだ曲を演奏し録音すると、
　ミスタッチ（音間違い）
　タイミングの大きなずれ
　タッチのばらつき
についての評価がディスプレイに表示されますので、自分の演奏を客観的にチェックすることができます。

なお、練習するための楽譜は、カワイ出版のものをご使用下さい。

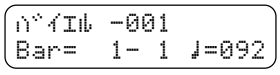
◇ 練習したい曲を選ぶ

□操作 1
LESSON（レッスン）ボタンを押します。

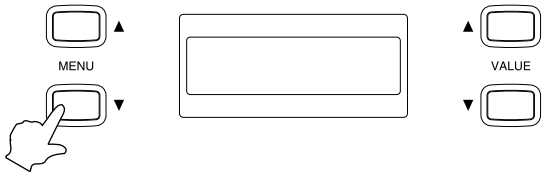


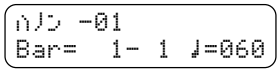
ディスプレイが練習曲選択画面になり、1 行目に曲集名 - 曲番号、2 行目に演奏小節とテンポが表示されます。

■この時「バイエル 1 番テーマ」が選択されています。



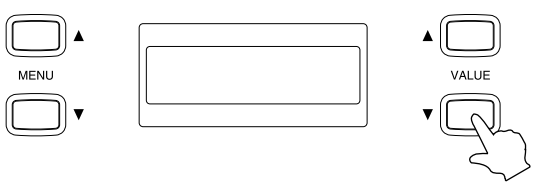
□操作 2
MENU（メニュー）ボタンの▼を押してハノンを選びます。

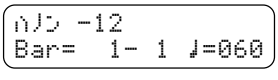




■ MENU ボタンの▲を押して選ぶ場合、練習曲インヴェンションの次にあります。

□操作 3
VALUE（バリュー）ボタンを押して練習したい曲番号を選びます。

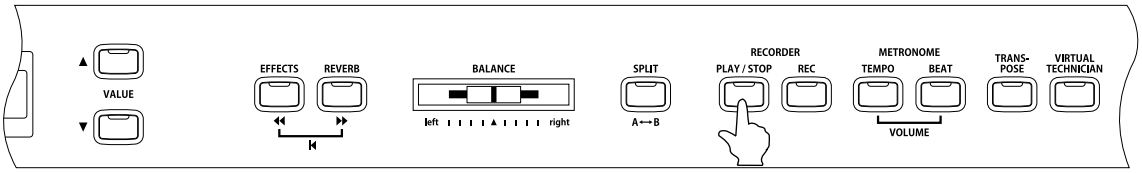




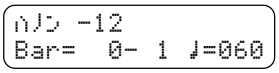
◇ 見本曲を聴く

□操作１

RECORDER（レコーダー）の PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。



メトロノームが１小節鳴った後、見本曲が再生されます。



■この間は現在の位置より１小節前の小節が表示されます。
■弱起の曲の場合、最初の小節位置はゼロになります。

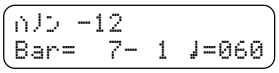
見本曲再生中もメトロノームが再生されますが、メトロノームを
切りたい場合には、METRONOME の TEMPO ボタンをオフにします。

テンポを変更して聴きたい場合には TEMPO ボタンを押しながら VALUE ボタンを押します。
▼で遅く、▲で速くなります。
変更した後、元のテンポに戻す場合には VALUE の▲と▼ボタンを同時に押します。

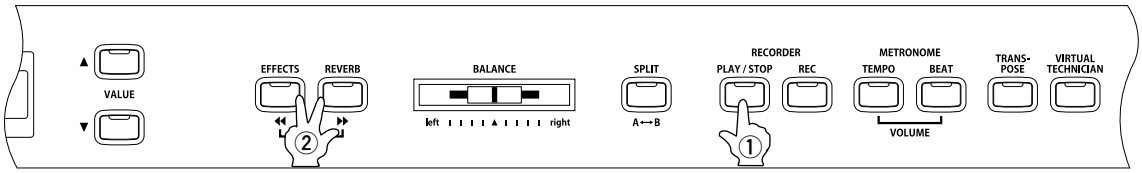
□操作２

RECORDER（レコーダー）の PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンをもう一度押します。

見本曲の再生が止まります。



もう一度 PLAY/STOP ボタンを押すと、１小節メトロノームが鳴った後、止めた小節の最初から再生が始まります。
最初から再生したい場合には、PLAY/STOP ボタンを押して演奏を止めてから、◀◀ボタンと▶▶ボタンを同時に押します。



また、練習曲同様、見本曲の途中から再生したり、繰り返し再生することができます。詳しくは、P.35（◇ 見本曲の途中から再生する）と P.37（◇ 見本曲の途中を繰り返して練習する）をご覧ください。

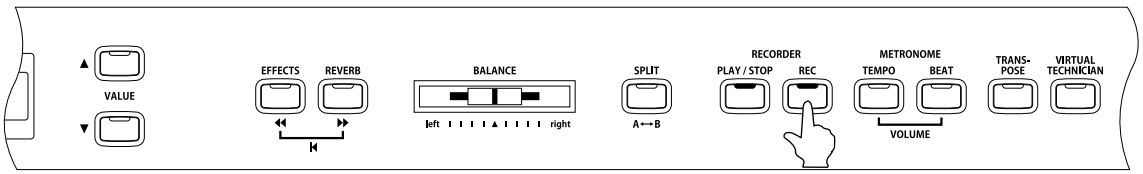
◇ 見本曲に合わせて録音し、評価結果をチェックする

見本曲を再生しながら自分の演奏を録音した後、録音した演奏の評価結果が表示されます。

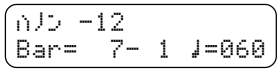
■リピート再生の設定をしている場合、リピートは無効になります。

□操作 1

REC（レック）ボタンを押します。



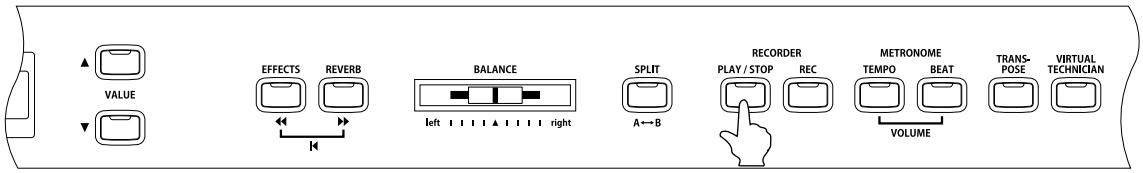
RECボタンとPLAY/STOPボタンのランプが点灯し、メトロノームが
1小節鳴った後、見本曲の再生と演奏の録音が始まります。



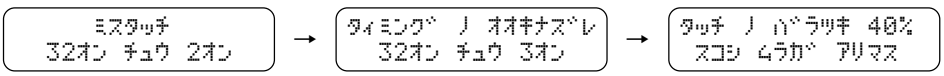
録音をはじめる前に、▶▶ボタンと◀◀ボタンで録音開始位置を変えることができます。
BALANCE スライダーで見本曲の音量を変えることができます。

□操作 2

PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押して、録音を終わります。



見本曲の再生と演奏の録音が終了し、次の3種類の評価結果が数秒ずつ繰り返し表示されます。



録音した演奏は REC ボタンと PLAY/STOP ボタンを同時に押すと消去することができます。

■録音した演奏は別の見本曲を選ぶと消去されます。

□操作 3

もう一度 PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。

メトロノームが1小節鳴ったあと見本曲と録音した演奏が再生されます。
評価結果を表示中に、録音した自分の演奏を再生してチェックすることができます。

BALANCE スライダーで見本曲の音量を変えることができます。

□操作 4

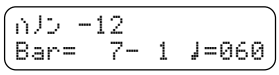
PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。

見本曲と録音した演奏が再生が止まります。

□操作５

MENU（メニュー）ボタンを押します。

評価結果の表示を終了し、練習曲選択画面に戻ります。



■評価結果の表示を終了しても、録音した演奏の再生ができます。

◇ レッスン機能を終了する

□操作１

LESSON（レッスン）ボタンを押して終了します。

4. レコーダーの使い方

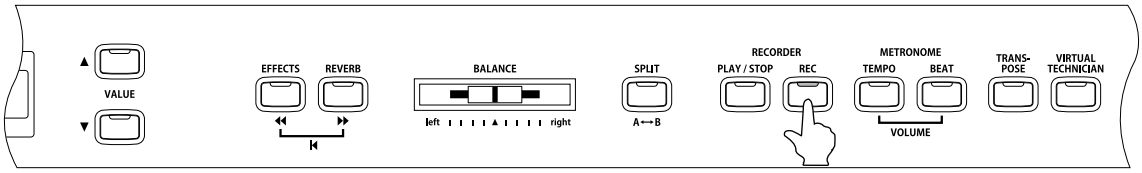
1）録音

CA51 では、レコーダー機能を使って自分の演奏を 5 曲（5 ソング）まで録音して再生することができます。
それぞれの曲（ソング）は、2 つのパートから構成されています。
①1 つのパートを使って両手の録音、再生をすることができます。
②2 つのパートを使えば、右手と左手をそれぞれのパートに別々に録音した後、別々に再生して片手ずつの練習に役立てることができます。両方のパートを合わせて再生することもできます。

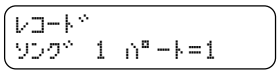
◇ 録音するソングとパートの選択

□操作 1

REC（レック）ボタンを押します。

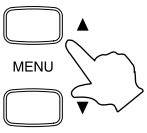


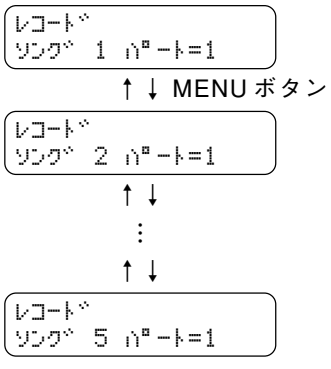
ディスプレイにソングとパートが表示されます。
REC ボタンが点滅します。



□操作 2

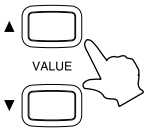
MENU（メニュー）ボタンを押して録音したいソングを設定します。





□操作３

VALUE（バリュー）ボタンを押して録音したいパートを設定します。



レコード
ソング 1 パート=1

↑↓ VALUE ボタン

レコード
ソング 1 パート=2

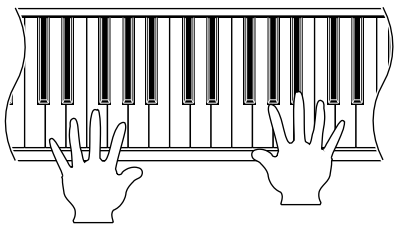
既に録音されているパートには、2行目右に＊マークが付いています。

レコード
ソング 1 パート=1＊

このパートに録音すると、以前まであった演奏データが消去されて新しい演奏データが記憶されます。

□操作４

鍵盤を弾いて録音をスタートします。



鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、REC ボタンと PLAY/STOP ボタンのランプが点灯します。

PLAY/STOP ボタンを押しても録音を開始できます。
録音中の音色変更も記憶されます。

□操作５

演奏が終わったら PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押して録音を終了します。

PLAY/STOP ボタンと REC ボタンが消灯し録音が停止します。
ディスプレイは、録音停止を表示した後、自動的に再生待機状態の表示になります。

レコード ストップ
ソング 1 パート=1 → プレイ
ソング 1 パート=1&2＊

■レコーダーの総記憶容量は、約 15,000 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンが消灯し、録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。

■レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えません。

■パート1に既に録音されているソングのパート2に録音するとき、パート1の演奏を再生しないでパート2に録音したいときは、RECボタンを押す前にPLAY/STOPボタンを押し、VALUEボタンを押してプレイパートを2に設定します。

■録音中のパネル操作に関して ...

・音色変更は記憶されます。

・デュアルスプリットモードの移行は記憶されます。

・エフェクト設定の変更は記憶されず、パネルで選ばれている音色に、選択されているエフェクトがそのまま使われます。

・テンポ変更は記憶されません。

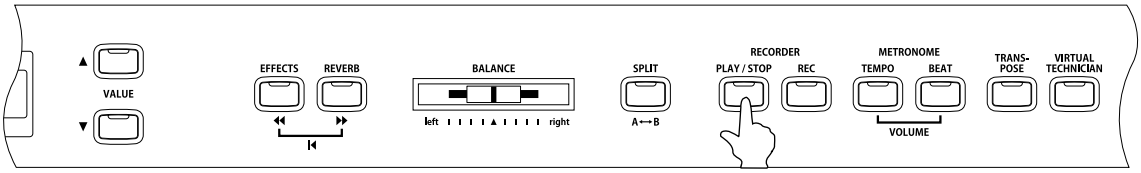
・デュアルスプリットバランスの変更は記憶されません。録音直前のバランスで記憶されます。

・タッチカーブ、トランスポーズボタンの ON/OFF 変更は、記憶されません。
再生時はトランスポーズがどこに設定してあっても、録音したときと同じ音高で再生されます。

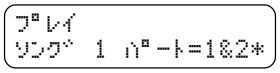
2）再生

録音した曲を再生します。
録音直後に再生する場合は、操作２より行ってください。

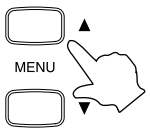
□操作１
プレイ/ストップ
PLAY/STOP ボタンを押します。

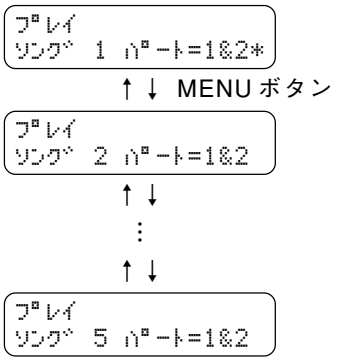


現在選択されているソングとパートが表示され、再生待機状態となります。

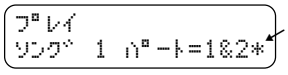


□操作２
メニュー
MENU ボタンを押して目的のソングを設定します。

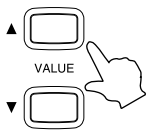


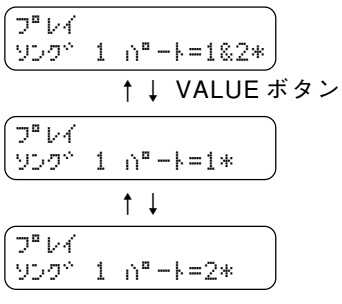


既に録音されているパートには、右下隅に＊マークが付いています。



□操作３
バリュー
VALUE ボタンを押して目的のパートを設定します。





ﾊﾟｰﾄ１＆２　：　パート１と２を再生
ﾊﾟｰﾄ１　：　パート１のみ再生
ﾊﾟｰﾄ２　：　パート２のみ再生

□操作４

再度、PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押し再生を開始します。

□操作５

演奏を停止するには、PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタン押します。

再生待機状態となります。
ここで次の曲とパートを選択することができます。

□操作６

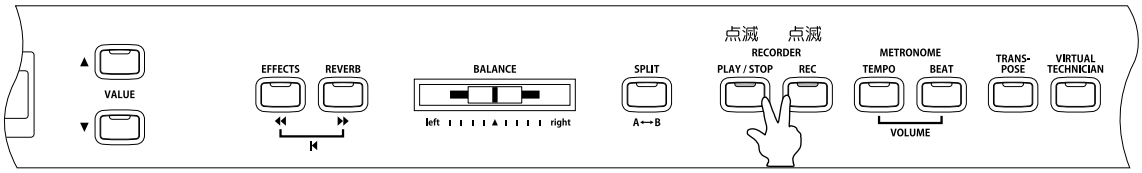
音色ボタンを押すと通常の状態に戻ります。

3）パートのデータの消去

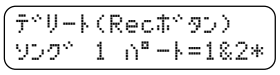
ここでは、録音に失敗したり、いらなくなった曲を１パートづつ消去します。

□操作１

PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンと REC（レック）ボタンを同時に押します。

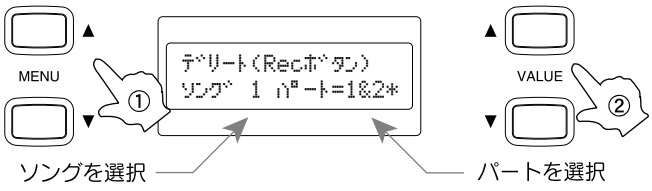


PLAY/STOP ボタンと REC ボタンのランプが点滅します。



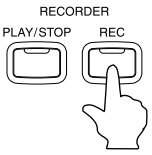
□操作２

MENU（メニュー）ボタンを押してソングを、VALUE（バリュー）ボタンを押してパートを選びます。



□操作３

REC（レック）ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。



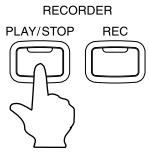

```
OK?  (Recﾎﾞﾀﾝ)
ｿﾝｸﾞ 1 ﾊﾟｰﾄ=1&2*
```

□操作４

再度 REC（レック）ボタンを押すとパートのデータが消去されます。

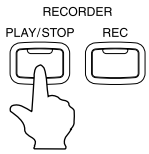
```
ﾃﾞﾘｰﾄ ｺﾝﾌﾟﾘｰﾄ
ｿﾝｸﾞ 1 ﾊﾟｰﾄ=1&2*
```

※操作３で消去を中止する場合は、PLAY/STOP（プレイ/ストップ）ボタンを押します。




```
ﾃﾞﾘｰﾄ ｷｬﾝｾﾙ
ｿﾝｸﾞ 1 ﾊﾟｰﾄ=1&2*
```
→
```
ﾃﾞﾘｰﾄ(Recﾎﾞﾀﾝ)
ｿﾝｸﾞ 1 ﾊﾟｰﾄ=1&2*
```

さらに PLAY/STOP ボタンを押すと、ディスプレイは再生時の表示となります。




```
ﾌﾟﾚｲ
ｿﾝｸﾞ 1 ﾊﾟｰﾄ=1&2*
```

■複数のソング / パートを消去するときは、繰り返し操作を行ってください。

■録音されているすべてのソングを消去したい場合は、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを押しながら、電源を入れてください。

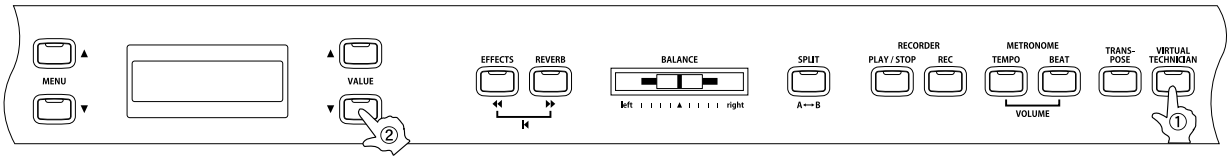
5. バーチャルテクニシャンの使い方

ピアノ調律師は、アコースティックピアノには、欠くことができません。
調律師は、調律 / 整調 / 整音作業により、ピアニストの趣好に合わせてピアノの調整をします。
バーチャルテクニシャンは、これらの作業を電子的にシミュレートし、演奏者の好みに近いピアノに調整することができます。

1）ボイシング
2）ダンパーレゾナンス
3）ストリングレゾナンス
4）キーオフエフェクト
5）タッチカーブ
6）音律の設定
7）音律の主音の設定
8）ストレッチチューニング
（音律が平均律（ピアノ）、平均律の時のみ）

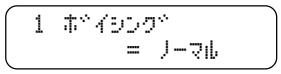
1）ボイシング

アコースティックピアノにおける、弦を叩くハンマーの状態をシミュレートしたもので、6種類のハンマータイプが選べます。



□操作 1

VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン） ボタンを押して、
ボイシングの画面を表示します。



□操作 2

VALUE（バリュー） ボタンで［ノーマル / メロウ 1/ メロウ 2/ ダイナミック / ブライト 1/ ブライト 2］の中から設定します。

ディスプレイの 2 行目にハンマーの種類が表示されます。

■ノーマル　：通常の設定です。
■メロウ 1, 2　：やわらかめのハンマーをシミュレートしたソフトな音色になります。
（メロウ 2 の方がよりやわらかなハンマーとなります。）
■ダイナミック　：タッチの強弱に応じて、ソフトな音色からブライトな音色までダイナミックに変化します。
■ブライト 1, 2　：硬めのハンマーをシミュレートしたブライトな音色になります。
（ブライト 2 の方がより硬いハンマーとなります。）

□操作 3

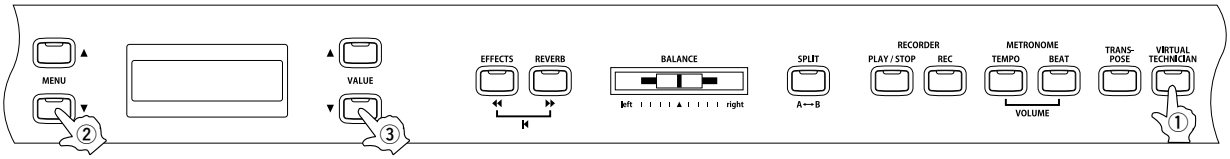
設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン） ボタンを押してオフにします。

つづけて、MENU ボタンを押して他の項目の設定をすることもできます。

■電源オン時は「ノーマル」に設定されます。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

2）ダンパーレゾナンス

ダンパーペダル（P.6 参照）を踏んだときのピアノ全体の共鳴効果をシミュレートしたもので、この共鳴音の音量を設定します。



□操作１

VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン） ボタンを押した後、MENU（メニュー） ボタンを数回押してダンパーレゾナンスの画面を表示します。

□操作２

VALUE（バリュー） ボタンで値［オフ．1～10］を設定します。

「オフ」の場合、共鳴音はありません。
「1」で最も弱く、「10」で最も強く響きます。

□操作３

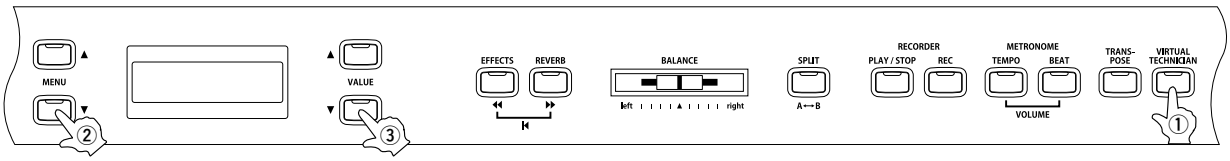
設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン） ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「5」に設定されます。（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）
■ダンパーレゾナンスは次のピアノ音色にのみ効果があります。

音色ボタン	CA51
PIANO1 （ピアノ1）	コンサート グランド
	スタジオ グランド
	メロー グランド
	ジャズ グランド

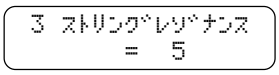
3）ストリングレゾナンス

ピアノの弦の共鳴効果（ストリングレゾナンス）をシミュレートしたもので、この共鳴音の音量を好みに合わせて変更します。



□操作１

VIRTUAL TECHNICIAN（バーチャル テクニシャン）ボタンを押した後、MENU（メニュー）ボタンを数回押してストリングレゾナンスの画面を表示します。



□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値［オフ．1～10］を設定します。

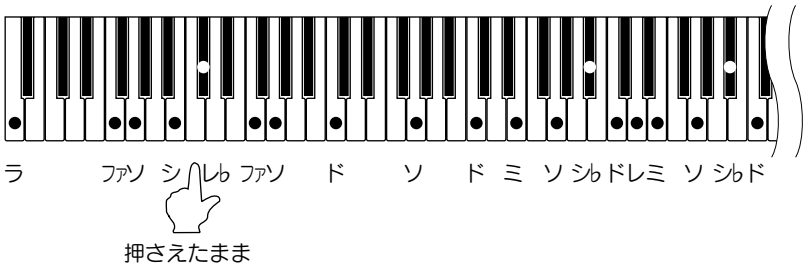
「オフ」の場合、弦の共鳴音はありません。
「1」で最も小さく、「10」で最も大きく鳴ります。

□操作３

設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押してオフにします。

■ストリングレゾナンスとは
ピアノは各鍵盤毎に弦が張られています。
ある鍵盤を押さえた状態で他の鍵盤を弾くと、2つの鍵盤の音程の関係によって弦の共鳴が発生して音が出ます。これがストリングレゾナンスです。
例えばドの鍵盤を押さえたままの時、下図の鍵盤を弾くとドの鍵盤の弦が共鳴して音が出ます。

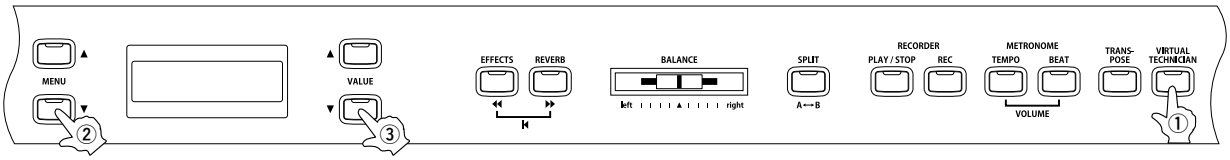
（ドの鍵盤をそっと押さえたままにして下図の鍵盤を弾いてすぐに止めると共鳴音が鳴っていることが良くわかります。）



■ピアノではある鍵盤を押さえたままにして隣の鍵盤を弾くと振動が伝わっておさえていた弦が共鳴して音が出ます。CA51 ではこの現象もシミュレートしています。
■電源オン時は「5」に設定されます。（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）
■ダンパーペダルを踏んだまま弾いた場合はストリングレゾナンス効果はありません。
■ストリングレゾナンスはピアノ音色にのみ効果があります。

4）キーオフエフェクト

特に低音で、ピアノの鍵盤を強く弾いてから離したときに、音が止まる直前にダンパーが弦に触れる音をシミュレートしたもので、この音量をお好みに合わせて調整することができます。



□操作１

VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押した後、MENU（メニュー）ボタンを数回押してキーオフエフェクトの画面を表示します。

```
4 キーオフエフェクト
      =  5
```

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値［オフ．１～10］を設定します。

「オフ」の場合、効果はかかりません。
「1」で最も弱く、「10」で最も強く鳴ります。

□操作３

設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「5」に設定されます。（但し、ユーザーメモリー（P.72参照）を設定した場合は、その設定に従います。）
■キーオフエフェクトはピアノ音色にのみ効果があります。

5）タッチカーブ

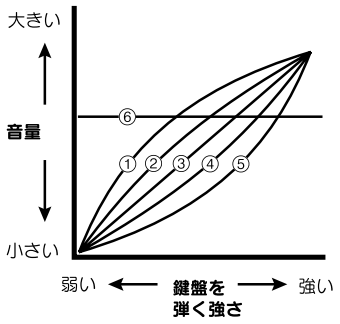
ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表したものをタッチカーブと呼びます。
CA51では、6種類のタッチカーブに加え、演奏する人の力に最も適したタッチカーブを作るユーザータッチカーブ作成機能を搭載しています。

①ライト十
②ライト　：　弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
小さなお子様や、オルガンプレーヤー向きの
タッチカーブです。

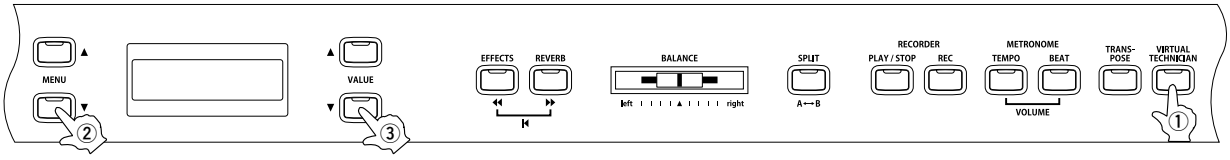
③ノーマル　：　アコースティックピアノと同程度のタッチで
音量が変化します。

④ヘビー
⑤ヘビー十　：　強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
指の力の強い人向きのタッチカーブです。

⑥オフ　：　タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。

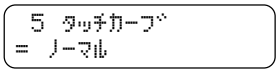


・ユーザー1
・ユーザー2　：　ユーザーが入力したタッチによりタッチカーブが作成されます。



□操作１

VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン） ボタンを押した後、MENU ボタンを押してタッチカーブの画面を表示します。



□操作２

VALUE（バリュー） ボタンでタッチカーブを［ヘビー十/ヘビー/ノーマル/ライト/ライト十/オフ/ユーザー1/ユーザー2］より選択します。

ディスプレイの２行目に値が表示されます。

■ユーザータッチカーブの設定方法は次ページを参照ください。

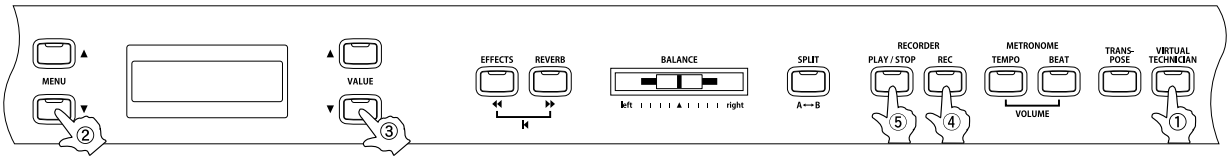
□操作３

設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン） ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「ノーマル」に設定されます。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

◇ ユーザータッチカーブ作成機能の使い方

ユーザータッチカーブ作成機能とは、ユーザーの鍵盤を弾く指の力に合わせて、自動的にタッチカーブを作成する機能です。



□操作１

VIRTUAL(バーチャル) TECHNICIAN(テクニシャン) ボタンを押した後、MENU(メニュー) ボタンを押してタッチカーブの画面を表示します。
次に VALUE ボタンでタッチカーブをユーザー１もしくは２に設定します。

```
 5 ﾀｯﾁｶｰﾌﾞ
=ﾕｰｻﾞｰ1(Recﾎﾞﾀﾝ)
```

□操作２

REC(レック) ボタンを押します。

```
ｴﾝｿｳ ｶｲｼ
ｼﾞｬｸﾀﾞ ﾆ ｷｮｳﾀﾞ
```

□操作３

鍵盤を弾きます。

適当な鍵盤を使って弱打から強打まで弾いて下さい。
ディスプレイは REC ボタンを押して数秒たつと次の表示に変わります。

```
ｴﾝｿｳ ｼｭｳﾘｮｳ
-> ｽﾄｯﾌﾟﾎﾞﾀﾝ
```

演奏が終わったら操作４に進んで下さい。

□操作４

PLAY/STOP(プレイ/ストップ) ボタンを押します。

```
   ｱﾅﾗｲｽﾞ
   ｺﾝﾌﾟﾘｰﾄ
```

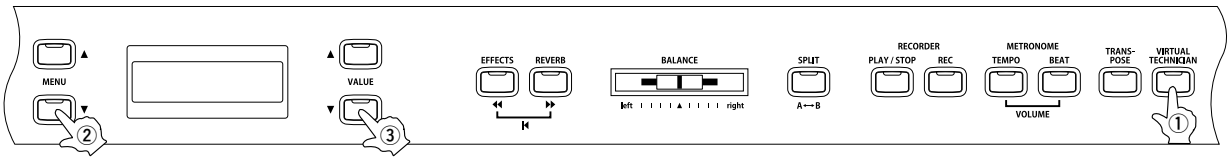
上記メッセージが画面に表示されたら完了です。
鍵盤を弾いた指の力に合わせて、タッチカーブが作成され本体に記憶されました。
電源をオフにした後も記憶しておきたい場合は、ユーザーメモリー操作（P.72 参照）を行って下さい。

6）音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を内蔵しています。

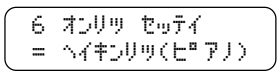
本機で設定できる音律は、以下の通りです。

◆ 平均律（ピアノ） (Equal P.only)	ピアノの音色が選択されている場合は、ピアノの調律曲線に従います。それ以外の音色が選択されていれば、平均律（フラット）に従います。
◆ 純正律＜長調＞ (Pure major)	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
◆ 純正律＜短調＞ (Pure minor)	純正律は、長調と短調で異なります。 長調と同様の効果を短調でも得られます。
◆ ピタゴラス音律 (Pythagorean)	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特徴です。
◆ 中全音律 (Meantone)	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特徴の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
◆ ヴェルクマイスター第III法 (Werkmeister) ◆ キルンベルガー第III法 (Kirnberger)	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した " 調性の性格 " を反映することのできる調律法です。
◆ 平均律（フラット） (Equal Flat)	ピアノの調律曲線を使わない平坦な平均律です。どのように移調しても和音の響きが変らないという特徴があります。
◆ 平均律 (Equal Stretch)	ピアノの調律曲線を使った平均律です。ピアノの調律法として、最もポピュラーなものです。
◆ ユーザー音律 (USER)	オリジナルの音律を設定できます。



□操作 1

VIRTUAL TECHNICIAN（バーチャル テクニシャン）ボタンを押した後、MENU（メニュー）ボタンを押して音律の画面を表示します。



ディスプレイの２行目に音律名が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで音律を設定します。

■平均律（ピアノ）

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ﾍｲｷﾝﾘﾂ(ﾋﾟｱﾉ)
```

↑↓ VALUE ボタン

■純正律長調

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ｼﾞｭﾝｾｲﾘﾂ1
```

→←

■純正律短調

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ｼﾞｭﾝｾｲﾘﾂ2
```

→←

■ピタゴラス音律

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ﾋﾟﾀｺﾞﾗｽ
```

→←

■中全音律

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ﾁｭｳｾﾞﾝｵﾝﾘﾂ
```

↑↓

■平均律（ストレッチ）

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ﾍｲｷﾝﾘﾂ
```

→←

■平均律（フラット）

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ﾍｲｷﾝﾘﾂ(ﾌﾗｯﾄ)
```

→←

■キルンベルガー第Ⅲ法

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ｷﾙﾝﾍﾞﾙｶﾞｰ
```

→←

■ヴェルクマイスター第Ⅲ法

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ｳﾞｪﾙｸﾏｲｽﾀｰ
```

↑↓

■ユーザー音律

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
= ﾕｰｻﾞｰ
```

■ユーザー音律を設定する場合は、下記の「◇ ユーザー音律の設定方法」を参照ください。

□操作 3

設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン） ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「平均律（ピアノ）」に設定されます。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

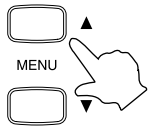
◇ ユーザー音律の設定方法

ユーザー音律が選択されたときのみ、この画面が現れます。
ここでは、各音のセント値（100 セント = 半音）が設定できます。

□操作 1

MENU（メニュー） ボタンを押してセント値設定画面を表示します。

MENU ボタン▲を押す度に各音が表示されます。



↑↓

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
 C    =     0
```

↑↓ MENU ボタン

```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
 C#   =     0
```

↑↓

⋮

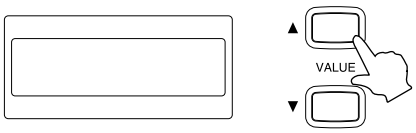
↑↓

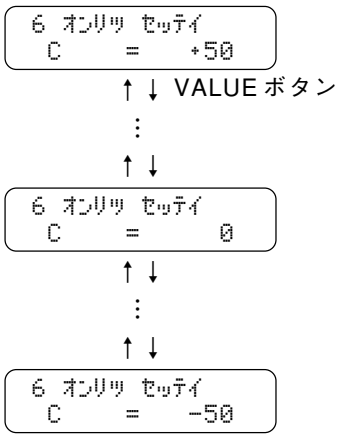
```
6 ｵﾝﾘﾂ ｾｯﾃｲ
 B    =     0
```

↑↓

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで［セント値］を設定します。（－50～＋50 セント）

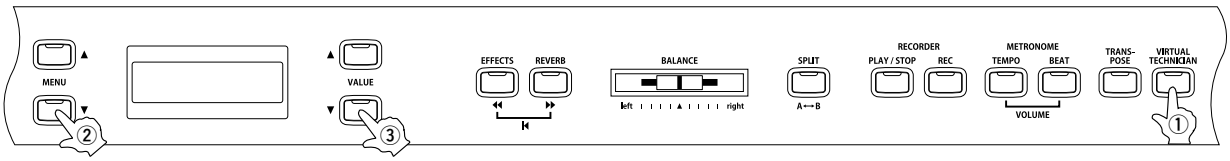




□操作３

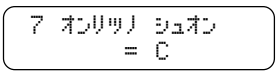
設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押してオフにします。

7）音律の主音の設定



□操作１

VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押した後、MENU（メニュー）ボタンを数回押して音律の主音の設定画面を表示させます。



□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで主音を［C～B］の間で設定します。

ディスプレイの２行目に主音が表示されます。
平均律（フラット）を選択した場合は、主音の設定をしても変化はありません。

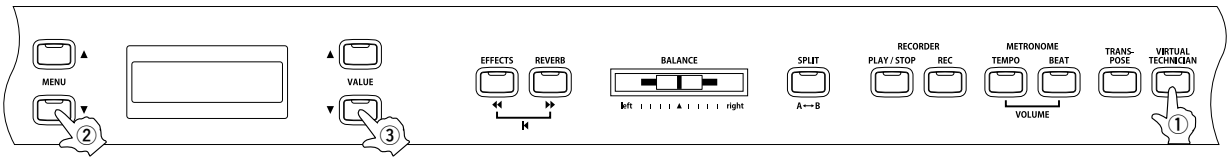
□操作３

設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押してオフにします。

■電源オン時の音律の主音は、「C」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

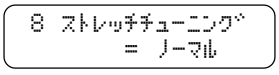
8）ストレッチチューニング

ストレッチチューニングとは通常の平均律に比べ低音側は低く、高音側は高くするピアノ特有の調律のことで、CA51 は 2 種類のストレッチチューニングから選ぶことができます。この機能は音律で平均律（ピアノ）あるいは平均律が選ばれている時のみディスプレイに表示されます。（P.54 参照）



□操作 1

VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押した後、MENU（メニュー）ボタンを数回押してストレッチチューニングの画面を表示します。



ディスプレイの 2 行目にノーマルまたはワイドが表示されます。

□操作 2

VALUE（バリュー）ボタンで［ノーマル / ワイド］の中から選びます。

「ワイド」にすると低音側はさらに低く、高音側はさらに高くなります。

□操作 3

設定を終えたら、VIRTUAL（バーチャル） TECHNICIAN（テクニシャン）ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「ノーマル」に設定されます。（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

6. 設定モードの使い方

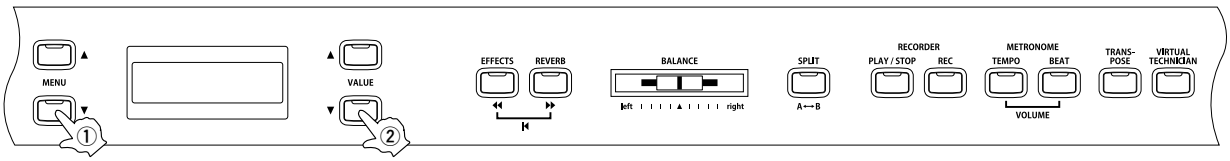
CA51 は、演奏を楽しむための各種設定をすることができます。
この設定モードでは、以下の設定を行うことができます。

1）ブリリアンス
2）ロアー オクターブ シフト
3）ロアー ペダルのオン/オフ
4）レイヤー オクターブ シフト
5）レイヤー ダイナミクス
6）ダンパーホールド
7）チューニング
8）MIDI送信・受信チャンネル
9）プログラム（音色）ナンバー送信
10）ローカルコントロール
11）プログラム（音色）ナンバー送信のオン/オフ
12）マルチ ティンバー モード
13）チャンネルミュート
（マルチ ティンバー モード、オンの時のみ）
14）メモリーバックアップ
15）ファクトリー リセット
（メモリーバックアップを行った時のみ）
16）表示言語

通常の演奏状態でMENU▲ボタンを押すと、1番目の設定項目が表示されます。またMENU▼ボタンを押すと、16番の設定項目が表示されます。続けてMENUボタンを押すと順番に次の設定項目を選ぶことができます。

1）ブリリアンス

ブリリアンスは、音質の明るさを設定します。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを押して、ブリリアンスの画面を表示します。

```
1 ﾌﾞﾘﾘｱﾝｽ
      = 0
```

ディスプレイの２行目に値が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値［－10～＋10］を設定します。

「＋10」で最も明るく、「－10」で最も暗い音質になります。

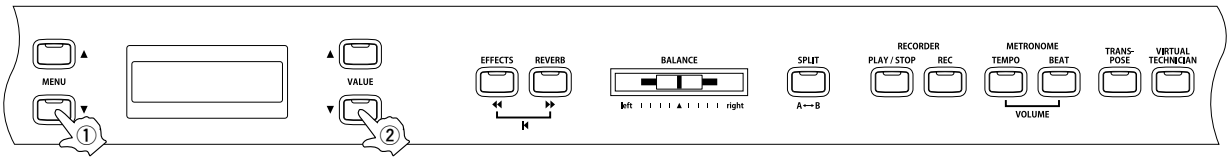
□操作３

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「0」に設定されています。
但し、ユーザーメモリー（P.72参照）を設定した場合は、その設定に従います。

2）ロアーオクターブシフト

ロアー オクターブ シフトとは、スプリット演奏時に低音側鍵盤の音域をオクターブ単位で移動することです。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、ロアー オクターブシフトの画面を表示します。

```
2 ロアー ｵｸﾀｰﾌﾞｼﾌﾄ
      =   0
```

ディスプレイの２行目に値が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値を設定します。

オクターブ値を０～３の範囲で設定します。

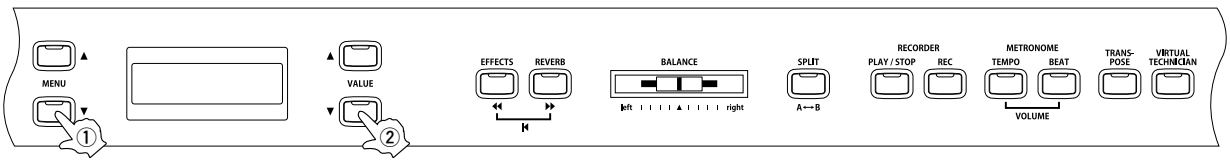
□操作３

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「0」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

3）ロアー ペダルのオン / オフ

スプリット演奏時にペダルを使用した際、低音側鍵盤の音にペダル機能のオン / オフを設定できます。
高音側鍵盤のペダル機能は常にオンとなります。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、ロアーペダルの画面を表示します。

ディスプレイの２行目にオンまたはオフが表示されます。

```
3 ロアー ﾍﾟﾀﾞﾙ
      = オフ
```

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンでオン / オフを設定します。

オンにすると、ペダルを踏んで演奏した際に低音側鍵盤の音にもペダル機能が働きます。
オフに設定すると、低音側鍵盤の音にはペダル機能が働かず、高音側鍵盤の音にのみペダル機能が働きます。

■ただし、ダンパーレゾナンス(P.49参照)はロアーペダルのオン／オフの設定にかかわらず働きます。

□操作３

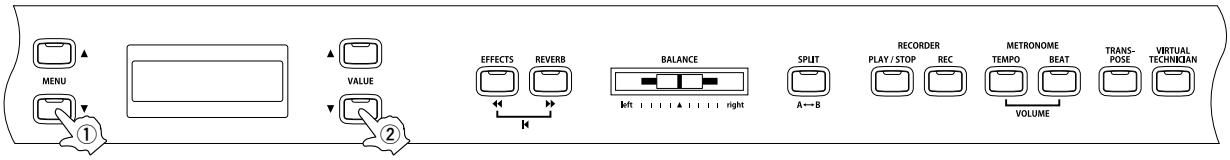
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「オフ」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

4）レイヤーオクターブシフト

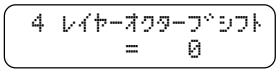
レイヤーオクターブシフトとはデュアル（P.11 参照）モードで２つの音色を重ねて弾く際に、片側の音色（レイヤー音色：ディスプレイの２行目に表示されている音色）の音域をオクターブ単位で移動することです。

例えば、コンサートグランドピアノとストリングアンサンブルをデュアルで重ねて演奏する時に、ストリングアンサンブルの音色だけをオクターブ上げて（あるいは下げて）演奏することができます。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、レイヤーオクターブシフトの画面を表示します。



ディスプレイの２行目に値が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値を設定します。

オクターブ値を－２～２の範囲で設定します。
－にするとオクターブ下がります。
デュアルモードでディスプレイの２行目に表示されている音色のオクターブが変わります。

■音色によっては高音域の音が設定したオクターブまで上がらない場合があります。

□操作３

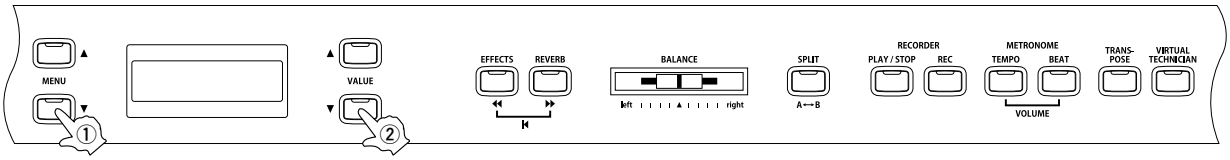
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「0」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

5）レイヤー ダイナミクス

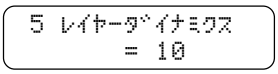
レイヤーダイナミクスとはデュアル（P.11 参照）モードで2つの音色を重ねて弾く際に、片側の音色（レイヤー音色：ディスプレイの2行目に表示されている音色）のタッチ変化の仕方を調整することです。

例えば、コンサートグランドピアノとストリングアンサンブルをデュアルで重ねて演奏する時に、通常の設定では、どちらの音色も同じように強弱が変化しますが、ストリングアンサンブルのタッチ変化の度合いを少なくすることにより、ダイナミックなピアノ音色をより強調した演奏をすることができます。



□操作 1

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、レイヤー ダイナミクスの画面を表示します。



ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□操作 2

VALUE（バリュー）ボタンで値を設定します。

ダイナミクスの値を 1～10 の範囲で設定します。
数字が小さいほどタッチ変化の幅が小さくなります。10 は単独で演奏した場合と同じダイナミクスになります。

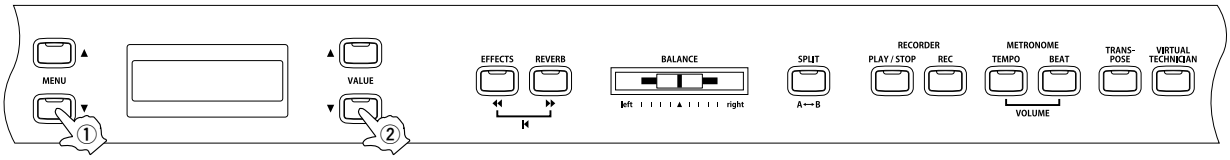
□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「10」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

6）ダンパーホールドのオン/オフ

ダンパーホールドとは、ストリングアンサンブルのような持続音色（鍵盤を押しつづけている間鳴りつづける音色）に対して、ダンパーペダルを踏んで鍵盤を弾いた時に、鍵盤から手を離した後も音を持続させる機能です。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、ダンパーホールドの画面を表示します。

ディスプレイの２行目にオンまたはオフが表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンでオン/オフを選びます。

オンにするとダンパーペダルを踏んで持続音色を弾いた時に、鍵盤から手を離した後も音が持続します。
オフにするとダンパーペダルを踏んで持続音色を弾いた時に、鍵盤から手を離した後、音が減衰します。

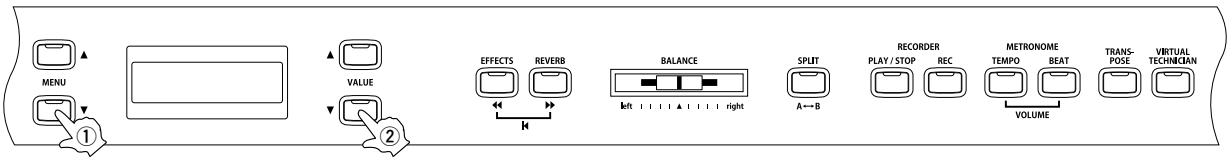
□操作３

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「オフ」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

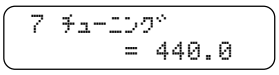
7）チューニング

チューニングは、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、チューニングの画面を表示します。



ディスプレイの２行目に値が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンでピッチを［427.0～453.0（Hz）］の間で設定します。

VALUE ボタンを押す度に 0.5 の単位で値を設定できます。

□操作３

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「440.0Hz」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

◇ MIDI について

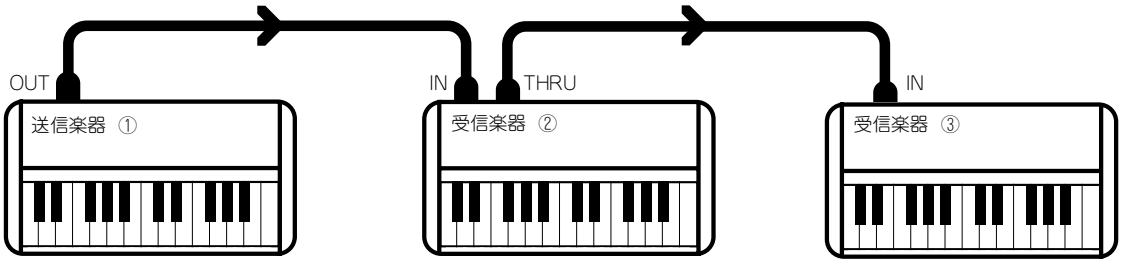
MIDI について簡単に説明します。
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするするための世界統一規格です。

MIDI 端子には、IN，OUT，THRU の 3 つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

IN　：　鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT　：　鍵盤情報や音色情報を送信します。
THRU：　受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの 2 種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

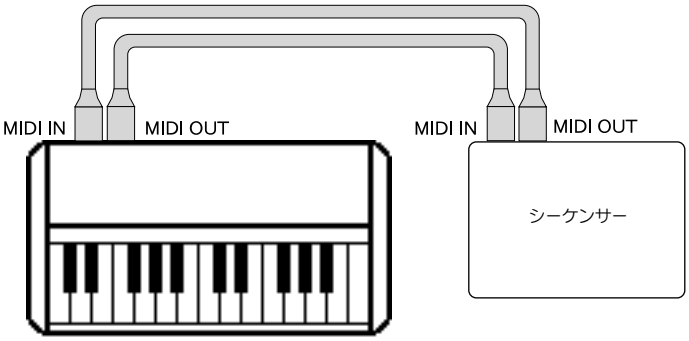
例えば 3 台の楽器を次のように接続して演奏するとします。



送信楽器①は、送信チャンネルと共に鍵盤情報等を受信楽器②，③に送ります。
受信楽器②，③には、この情報が送られて来ます。基本的には 受信楽器②，③の受信チャンネルと送信楽器①の送信チャンネルが一致していれば、送られた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。
チャンネル番号は、送信，受信とも 1 ～ 16 までの番号を使用することが出来ます。

◆ MIDI の使用例

◆シーケンサーを使っての録音 / 再生



図の様にシーケンサーに接続すれば、CA51の演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、デジタルピアノの練習に役立てることができます。また、CA51の設定をマルチティンバーオン（P.71 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。

◆ CA51 の MIDI 機能

CA51 の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信
CA51 を弾いて MIDI で接続したシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定
送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ プログラム（音色）ナンバーの送信
CA51 を弾いて MIDI で接続したシンセサイザーの音色を変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信
ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。

◆ ボリューム情報の受信
シンセサイザー等を弾いて、CA51の音を出しているとき、シンセサイザーでCA51の音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定
CA51 が受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことが出来ます。

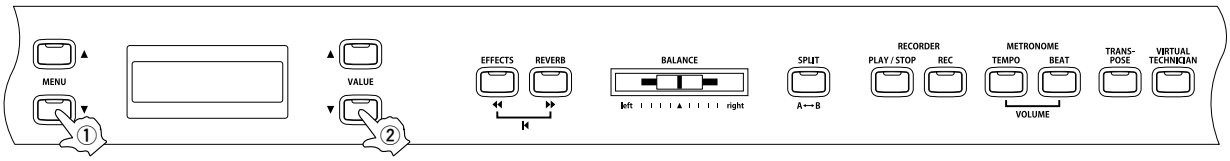
◆ エクスクルーシブデータの送信・受信
フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ レコーダーの再生情報の送信
レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

CA51 の MIDI 機能についての詳細は、" MIDI インプリメンテーションチャート "（P.80）をご覧ください。

8）MIDI 送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの２種類がありますが、CA51 では送受信を別々のチャンネルに設定することはできません。１つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、MIDI（ミディ）チャンネルの画面を表示します。

```
 8 MIDI ﾁｬﾝﾈﾙ
=  1  (ｿｳｼﾞｭｼﾝ)
```

ディスプレイの２行目にチャンネルの値が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値を［1～16］の間で設定します。

□操作３

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■CA51 は電源オン時には、１～16 のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。
これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。オムニオフで 1ch に設定したい場合は、一度チャンネルを２に設定してから１に戻してください。

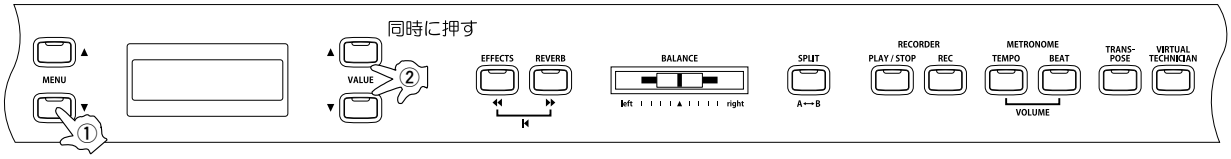
■マルチティンバーモードが、オン（P.71 参照）のとき
スプリット演奏時　：　低音側の演奏は、ここで設定したチャンネル +1 チャンネルで送信します。
例えばここでチャンネルを3に設定してマルチティンバーをオンにしたとき、スプリット演奏の低音側の音色の演奏は、４チャンネルで送信されます。

デュアル演奏時　：　第２音色は、設定したチャンネル +1 チャンネルで送信します。

（但し、チャンネルを 16 に設定した場合は、１チャンネルで送信します。）

9）プログラム（音色）ナンバー送信

CA51 では、1 ～ 128 までのプログラムナンバーを送信することができます。



□操作 1

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、プログラムナンバー送信の画面を表示します。

```
 9 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ#ｿｳｼﾝ
=    1 (UP+DOWN)
```

ディスプレイの 2 行目にプログラムナンバーが表示されます。

□操作 2

VALUE（バリュー）ボタンで送信する値を [1 ～ 128] の間で設定します。

□操作 3

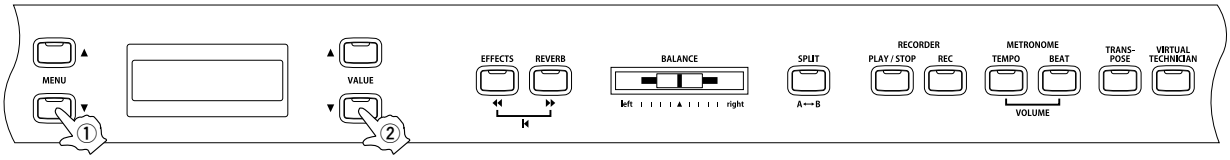
2 つの VALUE（バリュー）ボタン（▲▼）を同時に押すとプログラムナンバーの送信が実行されます。

□操作 4

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

10）ローカル コントロール

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカルコントロールオン/オフモードと呼びます。
ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。
一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らずMIDI情報を送信するだけで、MIDI情報を受信したときのみ音が鳴ります。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、ローカルコントロールの画面を表示します。

```
10 ローカルコントロール
       = オン
```

ディスプレイの２行目にオンまたはオフが表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値［オン/オフ］を設定します。

□操作３

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

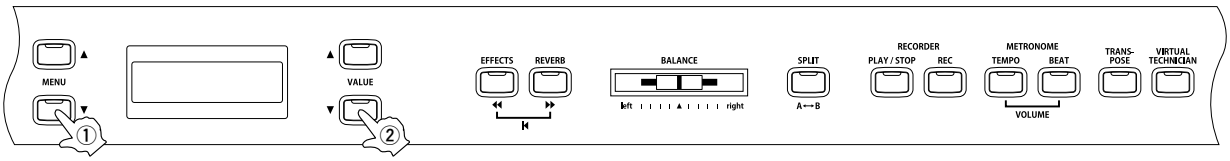
■電源オン時は、「オン」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

11）プログラム（音色）ナンバー送信のオン / オフ

◇ 音色ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

CA51 では、音色を切り替えることにより、次ページ表左側（マルチティンバーオフ、オン 1 の時）のプログラムナンバーを送信します。
（マルチティンバーモードをオンに設定したときは、次ページ右側（マルチティンバーオン 2 の時）のプログラムナンバーを送信します。）

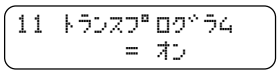
また音色ボタン以外にも、タッチカーブ、デュアル、デジタルエフェクト、リバーブのボタン操作を MIDI エクスクルーシブデータとして送信することができます。
この音色ボタンによるプログラムナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するか、しないかオン / オフを設定することができます。



■マルチティンバーモードは P.71 を参照して下さい。

□操作 1

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、トランス プログラムの画面を表示します。



ディスプレイの 2 行目にオンまたはオフが表示されます。

□操作 2

VALUE ボタンで値［オン／オフ］を設定します。

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、プログラムナンバーの送信は「オン」に設定されます。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

■デュアル / スプリットモード時には、デュアル / スプリット各モードのオン / オフ情報、音色の設定などをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。
マルチティンバーモードがオンのときは、プログラムナンバーも送信します。

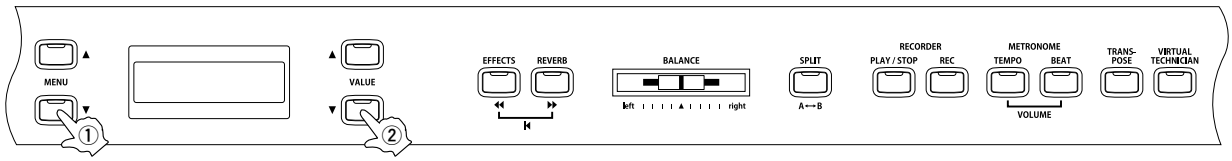
■音色に対応する送受信プログラムナンバー

音　　色	マルチティンバー オフ、オン１の時	マルチティンバーオン２の時		
	プログラムナンバー	プログラムナンバー	バンク	
	CA51		MSB	LSB
● PIANO1				
コンサート グランド	1	1	121	0
スタジオ グランド	2	1	121	1
メロー グランド	3	1	121	2
ジャズ グランド	4	1	95	8
● PIANO2				
ブライトピアノ	5	2	121	0
ホンキートンクピアノ	6	4	121	0
ニューエイジ ピアノ 2	7	1	95	9
ニューエイジ ピアノ 3	8	1	95	10
● ELECTRIC PIANO				
クラシック E. ピアノ	9	5	121	0
モダン E. ピアノ	10	6	121	0
60's E. ピアノ	11	5	121	3
モダン E. ピアノ 2	12	6	121	1
● DRAWBAR				
ジャズ オルガン	13	18	121	0
ドローバー オルガン	14	17	121	0
ドローバー オルガン 2	15	17	121	1
ジャズ オルガン 2	16	17	95	2
● CHURCH ORGAN				
チャーチ オルガン	17	20	121	0
ディアパソン	18	20	95	7
フル アンサンブル	19	21	95	1
オクターブ ディアパソン	20	20	95	6
● HARPSI & MALLETS				
ハープシコード	21	7	121	0
ハープシコード 2	22	7	121	3
ビブラフォン	23	12	121	0
クラビ	24	8	121	0
● STRINGS				
スロー ストリングス	25	45	95	1
シンセ ストリングス	26	49	95	8
メロー ストリングス	27	49	95	1
ストリング アンサンブル	28	49	121	0
● CHOIR				
クワイア	29	53	121	0
ポップ ボーカル	30	54	95	39
ポップ ボーカル 2	31	54	95	40
クワイア 2	32	54	95	53
● PAD				
ファンタジー	33	89	121	0
ファンタジー 2	34	100	121	0
ファンタジック クワイア	35	92	121	1
ファンタジー 3	36	101	95	1
● BASS				
ウッド ベース	37	33	121	0
エレクトリック ベース	38	34	121	0
フレットレス ベース	39	36	121	0
W. ベース & シンバル	40	33	95	1

12）マルチ ティンバーモード

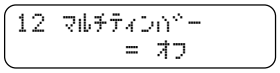
通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチ ティンバー モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。（受信プログラムナンバーに対応した音色は、前ページの表を参照ください。）

この機能により、外部にシーケンサーを使って、CA51 1台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、マルチティンバーの画面を表示します。



ディスプレイの２行目にオン、オフ１またはオン２が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで値［オフ/オン1/オン2］を設定します。

マルチティンバーモード がオフ、オン1の時にプログラムナンバーを受信すると、前ページの表左側のプログラムナンバーに対応した音色が選ばれます。

マルチティンバーモード がオン２の時にプログラムナンバーを受信すると前ページの表右側のプログラムナンバーとバンクナンバーに対応した音色が選ばれます。
また、受信チャンネルごとに発音のオン/オフを設定することができます。（チャンネルミュート P.72 参照）

□操作３

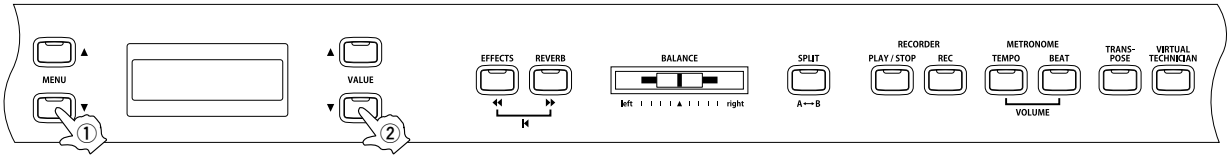
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、マルチ ティンバー モードは「オフ」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

■マルチ ティンバー モードがオンのとき、スプリット演奏中でも各受信チャンネルの音色は全てフルスケールで鳴ります。

13）チャンネルミュート

マルチティンバーモードがオンのときのみ、この画面が表示されます。
ここでは、各チャンネルのプレイ / ミュートが設定できます。



□操作 1

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、チャンネルミュートの画面を表示します。

MENU ボタンを押す度にチャンネルナンバーが表示されます。

↑ ↓
13 ﾁｬﾝﾈﾙﾐｭｰﾄ
ﾁｬﾝﾈﾙ 1= ﾌﾟﾚｲ
↑ ↓ MENU ボタン
13 ﾁｬﾝﾈﾙﾐｭｰﾄ
ﾁｬﾝﾈﾙ 2= ﾌﾟﾚｲ
↑ ↓
⋮
↑ ↓
13 ﾁｬﾝﾈﾙﾐｭｰﾄ
ﾁｬﾝﾈﾙ16= ﾌﾟﾚｲ
↑ ↓

□操作 2

VALUE（バリュー）ボタンで［プレイ / ミュート］を設定します。

13 ﾁｬﾝﾈﾙﾐｭｰﾄ
ﾁｬﾝﾈﾙ 1= ﾌﾟﾚｲ
↑ ↓ VALUE ボタン
13 ﾁｬﾝﾈﾙﾐｭｰﾄ
ﾁｬﾝﾈﾙ 1= ﾐｭｰﾄ

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

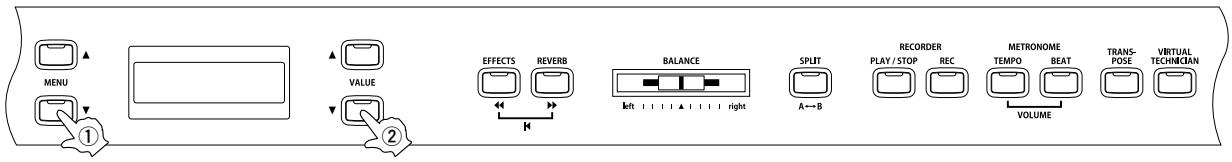
■電源オン時は、1ch は「オン」に、2 ～ 16ch は「オフ」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.72 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

14）ユーザー メモリー

自分の好みの設定を本体に記憶することで、電源を入れ直しても、その設定で演奏することができます。

記憶する内容は右の通りです。

◆ ユーザー メモリー実行時に選択されている音色
◆ ユーザー メモリー実行時の各音色ごとのエフェクトセッティング
◆ 設定モードで設定した内容
◆ バーチャルテクニシャンモードで設定した内容
◆ トランスポーズ
◆ メトロノームのテンポ、拍子、ボリューム



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、ユーザー メモリーの画面を表示します。

```
14 ﾕｰｻﾞｰ ﾒﾓﾘｰ
 ｾｰﾌﾞ  (Recﾎﾞﾀﾝ)
```

□操作２

REC（レック）ボタンを押し実行します。

```
14 ﾕｰｻﾞｰ ﾒﾓﾘｰ
 ｾｰﾌﾞ ｺﾝﾌﾟﾘｰﾄ
```

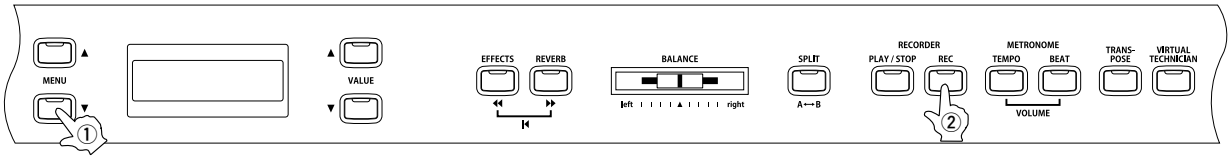
ディスプレイに、『ｾｰﾌﾞ ｺﾝﾌﾟﾘｰﾄ』と表示され、完了します。

□操作３

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

15）ファクトリー リセット

ユーザー メモリーを行ったときのみ、この画面が現れます。
ここでは、ユーザーメモリーで設定した内容を全て消去し、購入時の設定に戻すことができます。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、ファクトリー リセットの画面を表示します。

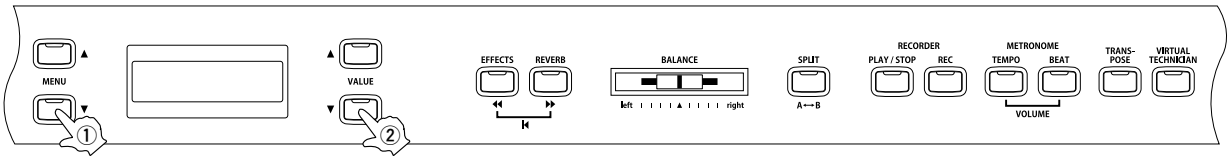
```
15 ﾌｧｸﾄﾘｰ ﾘｾｯﾄ
 ﾘｾｯﾄ  (Recﾎﾞﾀﾝ)
```

□操作２

REC（レック）ボタンを押すとファクトリー リセットされ、設定モードから抜けます。

16）表示言語

ディスプレイに表示される言語を、日本語と英語の２言語より選択できます。



□操作１

MENU（メニュー）ボタンを数回押して、表示言語の画面を表示します。

```
16 ﾋｮｳｼﾞｹﾞﾝｺﾞ
 = ﾆﾎﾝｺﾞ
```

ディスプレイの２行目に言語が表示されます。

□操作２

VALUE（バリュー）ボタンで日本語か英語を選択します。

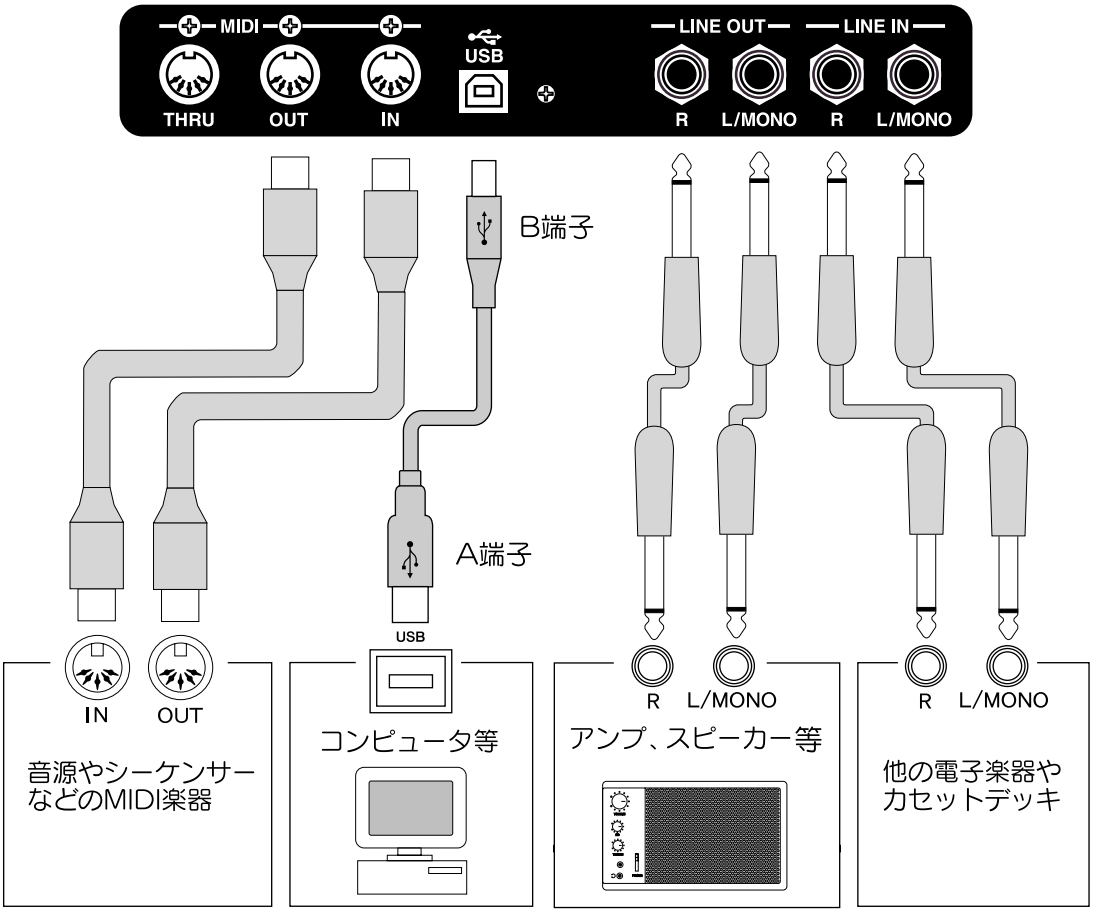
□操作３

選択を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■レッスン機能ではここでの設定にかかわらず日本語が表示されます。

7.付　録

◇ 他の機器との接続



⚠ 注意　・他の機器と接続する時は CA51 の電源を切ってから行って下さい。
・CA51 のラインイン（LINE IN）とラインアウト（LINE OUT）を直接ケーブルで接続しないで下さい。
発振音が発生し、故障の原因になります。

①LINE OUT（ライン出力端子）＜Phoneジャック＞
CA51の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり、カセットデッキ等に録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。Rは右側、L / MONOは左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONOのみにプラグを接続したときに出力されます。

②LINE IN（ライン入力端子）＜Phoneジャック＞
他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、CA51の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。Rは右側、Lは左側の入力を示しています。接続した機器がモノラルの場合はL/MONOにプラグを接続して下さい。音量調節は接続した機器で調節して下さい。

③MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

④USB端子
・市販のUSBケーブルでコンピュータと接続すると、MIDIデバイスとして認識され通常のMIDIインターフェイスと同様にMIDIメッセージを送受信することができます。
・USB端子にはA端子とB端子があり、コンピュータ側はA端子、デジタルピアノ側はB端子でそれぞれ接続します。

USBドライバーについて

コンピュータとデジタルピアノをUSB接続してデータをやりとりするためには、デジタルピアノを正しく動作させるためのソフトウェア（USB-MIDIドライバー）がコンピュータに組み込まれている必要があります。
お使いのコンピュータのOSによって使用するUSB-MIDIドライバーが異なりますので、下記の説明をよく読んでお使いください。

◇Windows XP/Me をお使いの方
Windows に搭載されている標準 USB-MIDI ドライバーを使用しますので、パソコンと接続すると自動的にこの USB-MIDI ドライバーがインストールされます。
アプリケーションソフトで本機と MIDI 通信する場合は MIDI デバイスとして「USB オーディオデバイス」を指定してください。

◇Windows 2000/98SE をお使いの方
指定の専用 USB ー MIDI ドライバーをコンピュータに追加する必要があります。下記のカワイホームページより専用 USB ドライバーをダウンロードしコンピュータにインストールしてください。
http://www.kawai.co.jp/download_demo/driver/

■パソコンと接続する前に説明書をよく読んで、必ずインストール作業を行ってください。
この作業を行わずに接続すると、USB-MIDI ドライバーが動作しない場合があります。
万一動作しなくなった場合は、OS の「ドライバーの更新」機能によって正しい USB-MIDI ドライバーをインストールするか、「ドライバーの削除」で削除してからインストール作業をやり直してください。

アプリケーションソフトで本機と MIDI 通信する場合は MIDI デバイスとして「KAWAI USB MIDI IN」、及び「KAWAI USB MIDI OUT」を指定してください。

◇Macintosh OS X をお使いの方
Macintosh OS X では自動的に USB-MIDI デバイスとして認識されますので、特別なドライバーは必要ありません。

アプリケーションソフトで本機と MIDI 通信する場合は「USB-MIDI」を指定してください。

◇OS9 以前の Macintosh をお使いの方
OS9 以前の Macintosh にはサポートしておりません。市販のMIDI インターフェイスを使用して、MIDI接続してください。

USBに関するご注意

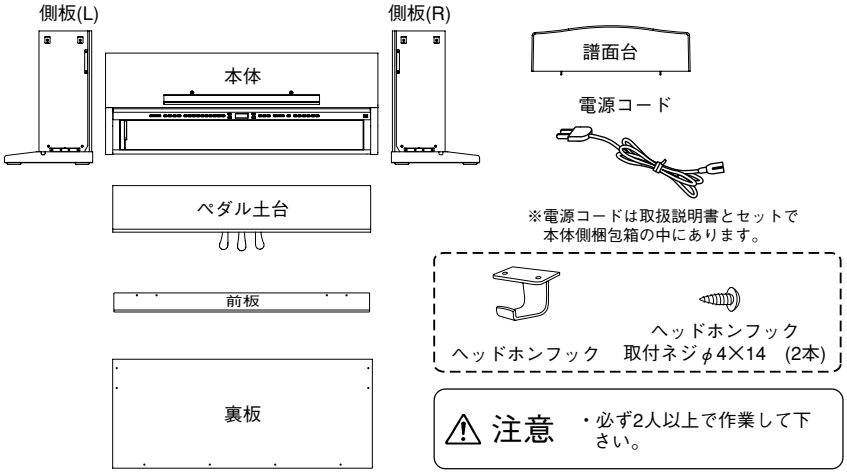
・MIDI と USB が同時に接続された場合、USB が優先されます。
・デジタルピアノとコンピュータを USB ケーブルで接続する場合は、まず USB ケーブルを接続してからデジタルピアノの電源を入れてください。
・デジタルピアノとコンピュータを USB 接続した場合、通信を開始するまでしばらく時間がかかることがあります。
・デジタルピアノとコンピュータをハブ経由で接続し動作が不安定な場合は、コンピュータの USB ポートに直接接続してください。
・下記の動作中、デジタルピアノの電源オン / オフ、USB ケーブルの抜き差しを行うと、コンピュータやデジタルピアノの動作が不安定になる場合があります。
  * ドライバーのインストール中
  * コンピュータの起動中
  * MIDI アプリケーションが動作中
  * コンピュータと通信中
  * 省電力モードで待機中
※お使いのコンピュータの設定によっては、USB が正常に動作しない場合があります。ご使用になるコンピュータの取扱説明書をよくお読みの上、適切な設定を行ってください。

※“MIDI”は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
※ Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。
※ Macintosh は、Apple Computer.Inc. の登録商標です。
※その他、本取扱説明書に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

◇ CA51 スタンド組立図

この度は、カワイ電子ピアノをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この説明書を一通りお読みになり、パーツがすべて、そろっていることを確認してから床や本体、スタンドを傷つけないように注意して組み立てて下さい。
（解体する時は、組み立てと逆の手順で行って下さい。）

■パーツ（同梱品） ※組み立てには（十）ドライバーを使用して下さい。



※電源コードは取扱説明書とセットで
本体側梱包箱の中にあります。

ヘッドホンフック　ヘッドホンフック取付ネジφ4×14　(2本)

⚠ 注意　・必ず2人以上で作業して下さい。

■組立ネジ

（先の平らなネジ）

a. M6×25（4本）

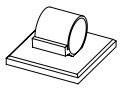
b. M4×12（8本）

（先の尖ったネジ）

c. φ4×25（4本）

d. φ4×16（10本）

e. コードクランプ（2個）



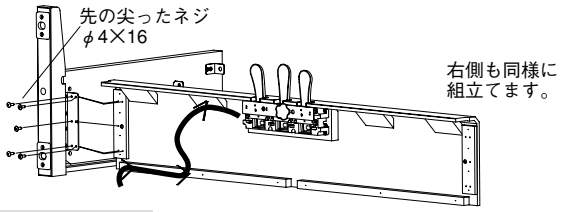
コードを側板の溝に入れる場合は、使用しません。

f. アジャスター（1個）

■組立順序

①ペダル土台を固定します。

(1) ペダル土台の裏側からアジャスター(f)を1cmくらいはめこみます。
(2) ペダル土台の裏側に結ばれている接続コードをほどいて引き出しておきます。
(3) ペダル土台に仮止めされているネジを側板の金属の溝にはめ込み、側板とペダル土台をぴったりと押しあててネジを締めます。
(4) 残りのネジ穴に先の尖ったネジd(Φ4×16)で固定します。
(5) 左右の側板を取り付けたら、ゆっくりと側板の平行を保ちながら起こします。



ここがポイント！

側板とペダル土台をしっかり密着させて下さい。

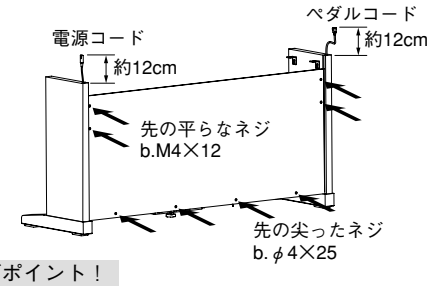
②裏板を仮止めします。（2通りの方法があります。）

A. コードを側板に収納する場合

(1) ペダルコードを側板(左)の溝に、電源コードを側板(右)の溝にそれぞれ入れます。(このとき、側板の上面より12cmほどコードを引き出しておきます。)
(2) 側板(左右)の溝に裏板を差し込みます。
(3) 側板上部の金具のネジ穴と裏板の穴を合わせて、先の平らなネジb(M4×12)で仮止めします。
(4) 先のとがったネジc(φ4×25)でペダル土台に固定します。
※この取付け方法の場合、付属のコードクランプは使用しません。

B. コードを側板に収納しない場合

(1) 側板(左右)の溝に裏板を差し込みます。
(2) 側板上部の金具のネジ穴と裏板の穴を合わせて、先の平らなネジb(M4×12)で仮止めします。
(3) 先のとがったネジc(φ4×25)でペダル土台に固定します。

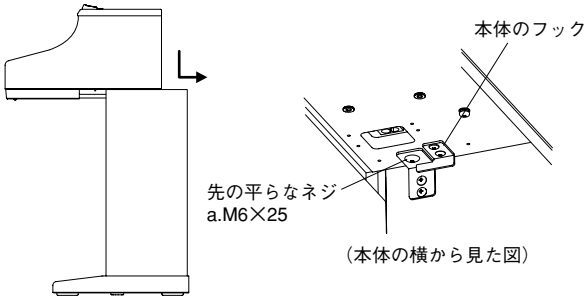


ここがポイント！

先の平らなネジb（M4×12）は、やや緩めに締め、側板が若干開き気味にしておきます。（完全に締めつけると、本体が入らなくなる場合があります。）

③本体を固定します。

(1) スタンドのやや前方(本体の後ろ側にスタンドの金具の穴が見える位置)に本体を乗せます。(側板の間に本体が入ります)
(2) 本体が傾いて落ちないように支えながら、本体を後ろ側へスライドさせ、本体のフックをスタンドの金具に引っ掛けます。
(3) 左右の側板を本体に密着させ、仮止めしておいた裏板の固定ネジb(M4×12)をしっかり締めます。
(4) 先の平らなネジa(M6×25)で本体を固定します。



ここがポイント！

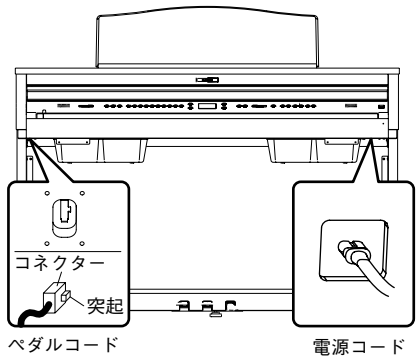
・側板を若干開き気味にしておいて、側板の間に本体を入れて下さい。
・側板と本体をぴったりと押しあててからネジで固定して下さい。

⚠ 注意
・必ず2人以上で作業して下さい。
・本体を乗せる時に、手をはさまないように注意して下さい。
・本体とスタンドは必ずネジ止めしてご使用下さい。ネジ止めしないで使用すると、本体がスタンドから落下する恐れがあり大変危険です。
・コードを側板に収納している場合は、コードをはさまないように注意して下さい。
・ネジは、無理に押し込まないで、まっすぐ入る位置で締めて下さい。
・ネジは、始めに手で軽く締めて、スムーズに締まることを確認して下さい。

④コードを接続します。（2通りの方法があります。）

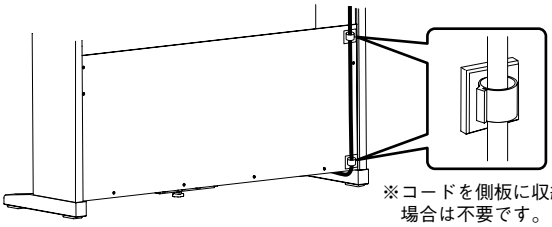
A. コードを側板に収納した場合

(1) ペダルコードと電源コードを本体に接続します。



B. コードを側板に収納しなかった場合

(1) 電源コードを本体に接続し、裏板の背面に引き出しておきます。
(2) ペダルコードを、裏板の背面側を通して本体に接続します。
(3) ペダルコードをコードクランプで固定します。
(4) 中継コードを本体に接続します。
中継コードは、裏板の背面に引き出しておきます。
※コードを側板に収納する場合は不要です。

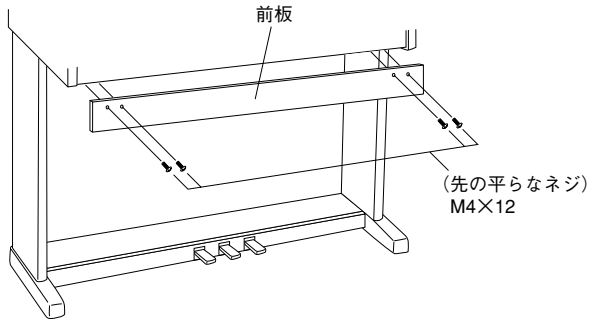


ここがポイント！

・コネクターの突起の向きに注意して下さい。
・コネクターはまっすぐ差し込んで下さい。無理に押し込むと故障の原因になります。
※コードを外す場合は、突起部分を押しながら、コネクターを抜いて下さい。

⑤前板を固定します。

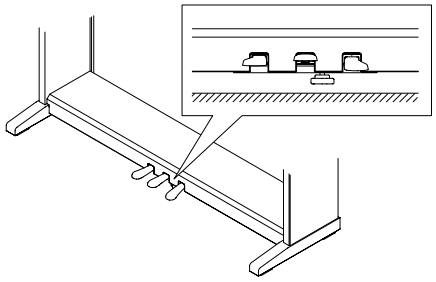
(1) 先の平らなネジb4本(M4×12)で、本体下面の金具に前板を取り付けます。



⚠ 注意
・必ず2人以上で作業して下さい。
・ネジは、無理に押し込まないで、まっすぐ入る位置で締めて下さい。
・ネジは、始めに手で軽く締めて、スムーズに締まることを確認して下さい。

⑥アジャスターを調整します。

スタンド底面のアジャスター(e)を、床にぴったりつくまで回し固定します。

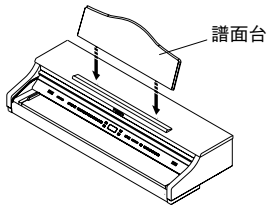


⚠ 注意
・アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。
必ずアジャスターが床についた状態でご使用下さい。
・アジャスターが床についたら、それ以上はアジャスターを回さないで下さい。
スタンドを破損する恐れがあります。
・移動の際は必ずアジャスターを取り外して移動し、移動後に再度調整して下さい。

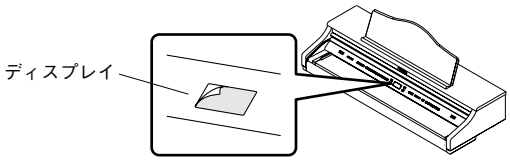
⑦ネジを確認します。

最後にネジがしっかり締まっているかもう一度確認します。

⑧譜面台を取付けます。



⑨「ディスプレイ」の保護フィルムをはがします。

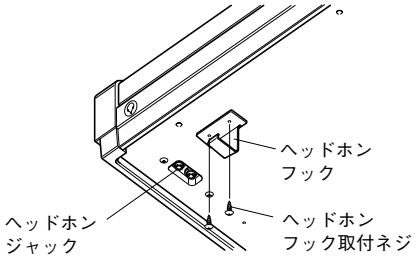


組立終了です。お疲れさまでした。

■ヘッドホンフックの取付

ヘッドホンフックと同封されている先の尖ったネジ2本(φ4×14)で、ヘッドホン端子の横にあるネジ穴に取り付けます。

※ ヘッドホンフックが不要な方は、取り付ける必要はありませんので、取扱説明書等と一緒に保管して下さい。



⚠ 注意
(移動について)
・移動の際は、前もってペダルアジャスターを取り外して下さい。
・移動の際は、引きずらないようにして下さい。
・本体をスタンドから外す際は、ペダルコード、中継コード、電源コードをあらかじめ外して下さい。

◇主な仕様

	CA51
■鍵　盤	88鍵　AWA グランドプロⅡ　木製鍵盤（AWA：アコースティック ウェイティッド アクション）
■同時発音数	最大96音（音色により異なる）
■音　色	40音色（P.9参照）
■ディスプレイ	16文字×2行　液晶ディスプレイ（LCD）
■効　果	リバーブ（ルーム1, 2、ステージ、ホール1, 2）、コーラス、ディレイ1, 2, 3、トレモロ、ロータリー1, 2
■レッスン	全346曲（練習曲：326曲、指のトレーニング：20曲）
■メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8拍子、リズム100種類
■レコーダー	2パート×5ソング、総記憶音数　約15,000音
■デモ曲	全31曲
■ピアノミュージック	全29曲
■コンサートマジック	全88曲
■バーチャルテクニシャン	ボイシング（6種）、ダンパーレゾナンス、ストリングレゾナンス、キーオフエフェクト、タッチカーブ（6種、ユーザー2種）、音律（9種類、ユーザー）、 ストレッチチューニング（2種）
■トランスポーズ	－12～＋12半音
■その他の機能	デュアル、スプリット、連弾演奏、バランススライダー、ブリリアンス、ロアーオクターブシフト、ロアーペダル、レイヤーオクターブシフト、レイヤーダイナミクス、ダンパーホールド、チューニング、MIDI機能設定、ユーザーメモリー、ファクトリーリセット
■ペダル	ダンパー（8段階）、ソフト、ソステヌート
■キーカバー	スライド式
■外部端子	ヘッドホン（2）、MIDI (IN、OUT、THRU)、LINE OUT（L/MONO、R）、LINE IN （L/MONO、R）、USB
■出　力	40W×2
■スピーカー	13cm×2（スピーカーボックス入り） 5cm×2（ツイーター）
■定格電圧	AC100V、50/60Hz
■消費電力	70W
■仕上げ	ローズウッド調
■寸　法	（W×D×H）138×52×91（cm） セットアップ時、但し譜面台含まず
■重　量	71.5Kg
■同梱品	本体/スタンド/譜面台/椅子/電源コード/取扱説明書（本書）/クラシカルピアノコレクション（楽譜集）/ヘッドホン/ヘッドホンフック/スタンド組立図/保証書/ご愛用者カード/ アフターサービスと音楽教室のご案内/楽譜集のご案内/「コンサートマジック曲集」注文振込用紙

Date : Jan '08
Version : 1. 0

◇ KAWAI［Model CA51］MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊＊＊	モード1 モード1, 3** ×	** 電源ON時オムニオン。 MIDIチャンネル設定操作によりオムニオフ。
ノート ナンバー	音域	21 - 108 * ＊＊＊＊＊＊＊＊＊	0 - 127 0 - 127	* 9-120　トランスポーズを含む。
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○　9nH　v=1-127 ×　9nH　v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	0,32 7 10 11 64 66 67	○ × × × ○（右ペダル） ○（中ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパー ソステヌート ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○（0 - 127） ＊＊＊＊＊＊＊＊＊	○（0 - 127）	
エクスクルーシブ		○	○	送信選択可能
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○（123～127） ○ ×	
備　考				

モード 1 ：オムニオン、ポリ　　モード 2 ：オムニオン、モノ
モード 3 ：オムニオフ、ポリ　　モード 4 ：オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

【お問い合せ先について】

◆ご不明な点がございましたら、下記お客様相談室をご利用ください。

［お客様相談室］
Tel：053-457-1311　　E-mail：customer@kawai.co.jp
電話受付時間　9：00～12：00 / 13：00～17：00
（土曜日、祝日及び弊社規定の休日を除きます）

［お客様サポート・お問い合せフォーム］
http://www.kawai.co.jp/　の「お客様サポート」よりお進みください。

◆故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店、もしくはお近くのフィールドサポート担当までご連絡ください。

※詳細は同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」の冊子をご参照ください。

KAWAI

株式会社 河合楽器製作所

電 子 楽 器 事 業 部

〒430-8665　浜松市中区寺島町200番地

TEL.053-457-1277 / FAX053-457-1279

http://www.kawai.co.jp/

KPSZ-0227
0802S
816171
Printed in Japan

© 株式会社河合楽器製作所　本取扱説明書の一部、或いは全部を無断で複写・転載することを禁止します。